



Annual Report 2020

学校法人東京電機大学 2019年度 学園活動の概況



学園の使命

学校法人東京電機大学は

大学、高等学校、中学校の経営を通し、

110年を超えて培ってきた歴史と伝統をもとに、

次世代を担う技術者を中核とした

人材を育成することにより、

社会に貢献することを使命としています。

その責任は、在学している学生・生徒、

ご父母、卒業生、産業界、社会全体、

そして未来に負います。



TDU

学校法人東京電機大学 総務部（企画広報担当）

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

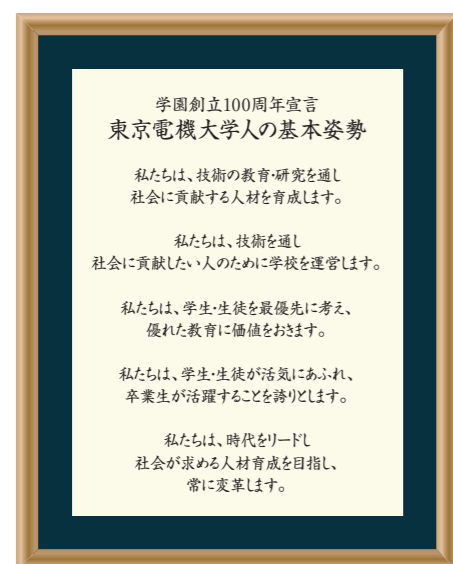
Tel.03-5284-5125 Fax.03-5284-5180 E-mail : keiei@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>

輝き続ける学園の実現に向けて



学校法人東京電機大学
理事長 石塚 昌昭



5つの行動規範 — 私たちの使命を実践する際のルールです

1. すべてに礼節を重んず
2. 本学は一人ひとりの教職員によって構成される組織体である
3. 額に汗し、努力の結果以外の報酬は受けない
4. すべての判断尺度は「正しいかどうか」、「公正であるかどうか」である
5. 常に原理原則に立ち、凜然と事を決す

本学園は2014(平成26)年度から10年間に亘る中長期計画「TDU Vision 2023」に取り組んでいます。これは、時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現に向けて、本学にしかできない特色ある取り組みの推進を目指すものです。中長期計画後半の6年目(2019(令和元)年度)に、大学、高等学校、中学校を取り巻く社会情勢や計画を進める中での課題等を踏まえ、計画全般について改訂を行い、現在中長期計画の7年目を迎えています。

学園の中長期計画は、建学の精神「実学尊重」と、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき推進しています。そして創立以来の学園の使命「技術で社会に貢献する人材の育成」を一貫して目指しています。創立当初からの技術者教育への熱い思いと学生・生徒主役、教育最優先の精神は、これまでも、そしてこれからも変わりません。今日卒業生は22万人を超え、日本にとどまらず世界の産業界をはじめ各界における卒業生の活躍が、本学の社会的評価に表れていることを大変誇りに感じます。

学生・生徒、教職員に対し教育・研究の環境を十分に提供することが、理事長としての重要な任務であると私は考えています。そのためには、健全な財政のもとに教育・研究業務が運営されなくてはなりません。少子高齢化が進行する中、全教職員と学園の理念や目標を共有しながら、中長期計画の推進を一步一步進めることで、財政の健全化を推進し、学園の使命を果たしていきたいと思っております。

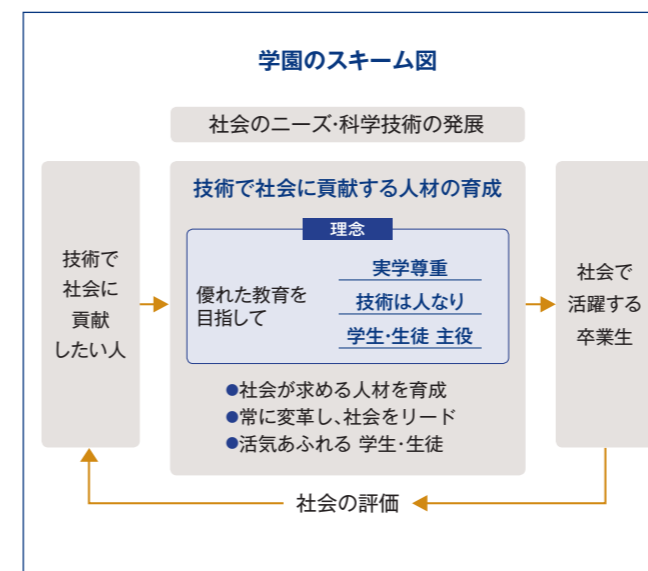
社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現のためには、厳しい課題や試練にも対応していくことが必要ですが、今年度は教職員とともに、「見える化を進めて職場の満足度を高めていきたい」と考えています。やりがいのある職場を創っていくこと、その先に必ず「技術で社会に貢献できる人材の姿」があります。

学校は多くの関係者の皆様に支えられて存在しています。皆様からのご支援への感謝を胸に、「東京電機大学人」の深い愛校心を原動力にして学園のさらなる飛躍に尽力してまいります。

最後に、2019年に発生した新型コロナウイルス感染症はパンデミックと言われています。こののち、世界がどのような方向へ進んでいくのか、どのように対応していけばいいのか、誰も予想できず、正解を知らない状況です。

経済的な困窮に対する学生の漠然とした不安も増えつつあり、このままでは、折角縁あって本学を選択してくれた学生・生徒と離別することになりかねないとの心配もはじめました。こんな中で、学生・生徒を支援し、心配なく勉学に励んでもらいたい、本学の教職員も守らなくてはならない、学園は継続しなければならない、そんな思いでスピーディーな対応・決断・行動を心がけていきます。未曾有の事態に直面している学生・生徒には、身を切る支援を進めていかななくてはならないと考えています。

このような事態においても輝き続ける学園となるように、より一層の工夫・努力をしていきます。



理事長メッセージ

01 輝き続ける学園の実現に向けて

創立から今日まで

03 — 私たちの理念 技術で社会に貢献する人材の育成を目指して

05 基本情報・経営体制

学長メッセージ

07 自分で考え、判断し、行動する。 人の心を理解し、社会に貢献できる 確かな眼力を持った 研究者・技術者を育成します。

校長メッセージ

08 予測困難な未来を 生き抜くための力とは?

特集

卒業生スペシャルインタビュー 最先端の情報セキュリティ技術で 社会を安全に。快適に。 NTTコミュニケーションズ株式会社 イノベーションセンター テクノロジー部門 名雲 孝昭 さん

11 事業報告 2019年度の取り組みと成果

21 財務情報

27 Information & Data

創立から今日まで
— 私たちの理念

技術で社会に貢献する人材の育成を目指して

若き技術者が技術者のための学校を創立

本学園は1907(明治40)年、「社会の第一線で活躍できる技術者を育成し、工業の発展を目指す」を建学の精神として、東京・神田に電機学校として創立されました。

当時は、西洋文明の導入により優れた技術や最新の機械が次々と輸入されてきましたが、これを駆使できる技術者がわずかという状況でした。若い技術者であった創立者の廣田精一、扇本眞吉は、このような状況は国の発展に大きな障害となると考え、工業教育の普及こそが国家発展の基であるとの識見にたち、技術を学ぼうとする

者に広く門戸を開きました。

開校当日は生徒わずか14名の小さな学校でしたが、「先駆的なこと、革新的で創造的なこと、それらすべてに対して、あれほど大胆で意欲的であった教育者を見たことがない」と言われる程の熱意、教育理念が高く評価され、校勢は瞬間に拡大していきました。その精神は本学園の伝統として脈々と受け継がれ、2017(平成29)年に、学園創立110周年を迎えました。そして、さらに次の100年に向け歩み続けています。

創立者

廣田 精一(1871~1931)

広島県生まれ。1896年東京帝国大学工科大学卒業。高田商会に在籍のままドイツシーメンス・ハルスケ電気会社入社、その後欧米諸国を視察して帰国。1907年扇本眞吉とともに私立電機学校設立、1914年オーム誌創刊、1916年組織を財団法人に改め、総務理事に就任。1921年現神戸大学工学部を創立。電気自動車の開発にも力を注ぎ、エジソンにも面会した。



扇本 眞吉(1875~1942)

岐阜県生まれ。1902年東京帝国大学工科大学卒業。ドイツシーメンス・ハルスケ電気会社、深川電燈株式会社、江ノ島電気鉄道株式会社等に奉職。1907年廣田精一とともに私立電機学校を設立し、初代校長として尽力。1916年組織を財団法人に改め財務理事に就任。専心その任にあたる。



「実学尊重」「学生・生徒主役」「技術は人なり」

3つの主義

生徒第一主義

「学校の存在も細目の校務も、生徒を前提とする。(中略)生徒に対しよい学校にすることを根本義とした」

教育最優先主義

「叱ることは良くない。教師の最も注意すべきことは、自分が偉いように錯覚し、また自分が生徒より長年かかって現在の学力があることを忘れていのである。(中略)教師であれば初心者にもわかるように説明する方法を考えよ。それができなければ、現代に生きる資格がないと反省せよ。叱る先生には先生たる資格はない。先生にはただ、愛を必要とするのである。懇切親愛こそが、先生の価値である」

実学尊重

工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指した。そのために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作するなど、充実に努めた。

今につながる創立時の教育理念 — 創立者の言葉から

「考える、とは何かと問い、考える、とは何かと考えつづける。これが、すなわち教育である。ティーチング・ラーニング(一方的に教師が知識を教え、生徒はそれを受けてただ反復するだけの詰め込み教育)などエデュケーションの名に値せず」

「知識は紙によって伝えられる。学生は紙に書かれた知識をどれだけ記憶したか、によって試されるのではなく、その知識の先に何があるのか、それをどこまで透察したかによって試されなければならない」
「現代社会に試験制度は欠かせないであろうが、しかしそれは必要悪であることを自覚せよ。大事なことは試験制度を一人歩きさせてはいけないということだ。試験制度が一人歩きするようになれば、人が試験をつくるのではなく、試験が人を作るようになる」

「技術は人なり」

「私は技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に「人」にならなければならない。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」

「技術を構成する要素には、それぞれの自然法則が応用されるのでありますが、これを構成して大きな総合技術を完成するには、技術者の構想を多分に必要とするのであります」

「専門学科目の精選充実を図るとともに、実験及び実習を重視する。特に従来の学校教育の習得偏重を排し、技術者として実地に測する物の製作技術を修得し、且つ勤労の精神を涵養する目的を以て已に実習工場を設けてあるが、新制大学としても益々之を拡充する」(大学設置認可申請書より)

※「」内は本学園の年史等より抜粋(出典記載のあるものを除く)

大学設立

1949(昭和24)年、民主的社会人としての教養を涵養するとともに広く技術に関する学芸を教授研究し、学生の智的・道徳的・応用的能力を展開させることを目的に、「実学尊重」を建学の精神として、「東京電機大学」を設立しました。

初代学長には、ファックスの育ての親で日本の十大発明家に数えられる丹羽保次郎博士を迎えました。丹羽博士の「技術は人なり」は大学の教育・研究理念として、また中学校・高等学校の校訓「人間らしく生きる」として、今日に受け継がれています。



学園創立100周年記念式典。2007(平成19)年9月11日。



2012(平成24)年開設当初の東京千住キャンパス。



▲丹羽保次郎博士が開発したファックス。1928(昭和3)年、NE式電送装置実用化に成功。

◀文化勲章受章時の丹羽博士

初代学長

丹羽 保次郎(1893~1975)

三重県生まれ。1916年東京帝国大学工科大学電気工学科卒業。通信省電気試験所、日本電気株式会社に勤務。1924年に欧米を視察し帰国後、写真電送の研究に取り組み有線写真電送装置を発明した。日本初の写真電送装置(ファクシミリ)として、昭和天皇即位式のニュース写真の電送に用いられ優れた成績を上げ、世界で広く普及。さらに無線写真電送の研究に着手。1929年、東京・伊東間で日本初の長距離無線写真電送の実験に成功。1949年東京電機大学の初代学長に就任。1955年(社)テレビジョン学会初代会長。1957年米国無線学会(米国電気電子学会の前身)副会長、同東京支部長。1959年に文化勲章、1971年に勲一等瑞宝章を授与される。日本の十大発明家に数えられる。

沿革

- 1907 電機学校を東京・神田に創立(創立者:廣田精一・扇本眞吉)。「生徒第一主義、教育最優先主義、実学尊重」を基本方針とする。
- 1914 科学技術誌「オーム」発刊(現在のオーム社に発展)。
- 1924 ラジオ実験放送を開始(NHKは1925年実験放送を開始)。
- 1928 丹羽保次郎博士が写真伝送(現在のファックス)に成功。本学実演室で、高柳健次郎氏による日本初のテレビ公開実験。
- 1948 電機学園高等学校開学(現・東京電機大学高等学校)。東京・秋葉原に秋葉原電気街誕生。本学が育ての親と言われる。
- 1949 東京電機大学開設、工学部第一部設置、初代学長・丹羽保次郎博士の「技術は人なり」を教育・研究理念に、建学の精神は「実学尊重」。
- 1950 東京電機大学短期大学開設(夜間)。
- 1952 工学部第二部設置(夜間)。
- 1958 大学院開設(日本初の夜間大学院)。
- 1962 第2代学長阪本捷房博士が日本ME学会(現・日本生体医工学会)を創立。
- 1970 パソコン創成期に先導的役割を果たす。
- 1977 理工学部開設(埼玉鳩山キャンパス)。
- 1990 千葉ニュータウンキャンパス開設。
- 1992 東京小金井キャンパスを開設し高等学校移転。
- 1996 東京電機大学中学校開校。



- 2000 東京電機大学TLO(技術移転機関)が承認される。
- 2001 情報環境学部を千葉ニュータウンキャンパスに開設。
- 2006 大学院先端科学技術研究科を開設。
- 2007 学園創立100周年。未来科学部開設、全学的改編を実施。
- 2010 (財)大学基準協会による大学基準適合認定。
- 2012 東京千住キャンパス開設。
- 2017 学園創立110周年。システムデザイン工学部開設、大学基準適合認定。

基本情報

学校法人東京電機大学の概要

2020(令和2)年5月現在

創立：1907(明治40)年9月11日
 理事長：石塚 昌昭
 監査法人：EY新日本有限責任監査法人
 教職員数：593名(教員数407名、職員数186名)
 設置学校：東京電機大学

キャンパス所在地：

東京千住キャンパス 東京都足立区千住旭町5番

- 法人・大学本部
- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院工学研究科
- 大学院情報環境学研究科
- 大学院未来科学研究所
- 工学部
- 工学部第二部
- 未来科学部
- システムデザイン工学部
- 総合研究所
- 出版局



埼玉鳩山キャンパス 埼玉県比企郡鳩山町石坂

- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院理工学研究科
- 理工学部
- 総合研究所 (埼玉共同利用施設)



千葉ニュータウンキャンパス

千葉県印西市武西学園台2-1200

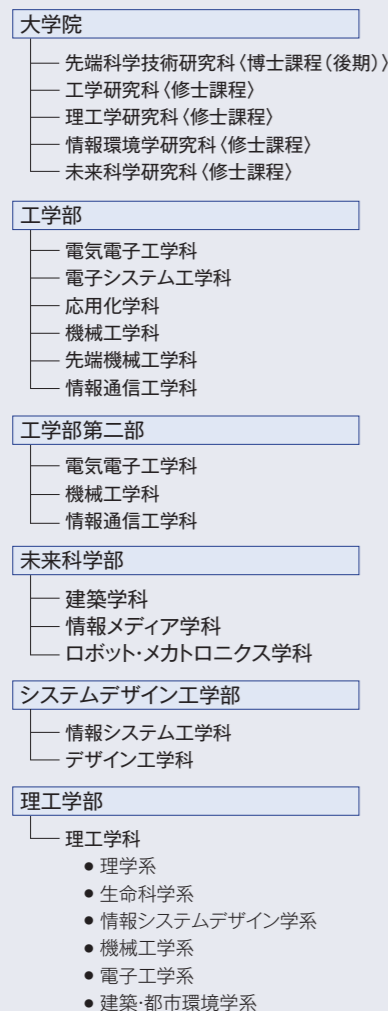
- 総合研究所(千葉共同利用施設)



東京小金井キャンパス

東京都小金井市梶野町4-8-1

- 中学校・高等学校



東京電機大学高等学校

全日制課程 普通科

東京電機大学中学校

研究推進社会連携センター：

総合研究所 サイバー・セキュリティ研究所/レジリエントスマートシティ研究所/
 医療・福祉機器開発・普及支援センター/耐震安全研究センター/
 知能創発研究所

ものづくりセンター

インスティテューショナル リサーチ センター

総合メディアセンター

東京電機大学出版局

経営体制

ガバナンス体制

●理事会は現在、理事14名及び監事2名で構成し、経営、管理運営及び業務執行に関する重要事項を審議するため、8月を除く毎月1回開催し、また必要に応じ臨時に開催しています。

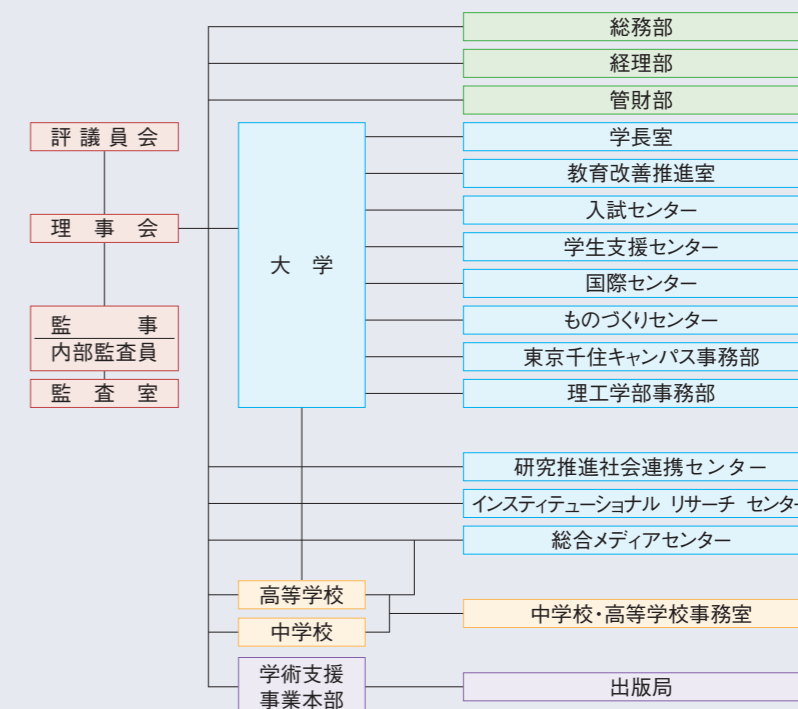
●常勤理事会は理事長、学長、常務理事及び本法人の身分を持つ理事で構成し、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項の審議及び理事会の委任業務について決定し、毎週1回を原則に開催しています。また必要に応じ、監事、卒業生理事等の出席を要請しています。

●常務理事、担当理事を配置し、学園運営にあたっています。

●監事は、2名のうち1名はこれまで本法人の役員または職員でなかった者を選任。理事会に出席し、法人全般の業務や財産の状況を監査します。また、監事監査、会計士監査、内部監査の三様監査の体制をとっています。

●評議員会は学識者、卒業生、教職員など50名近くで構成し、予算と決算を含む学園経営の重要な事項の諮問や決定を行う機関として、年数回開催しています。

管理運営組織 (事務組織) (臨時組織は除く)



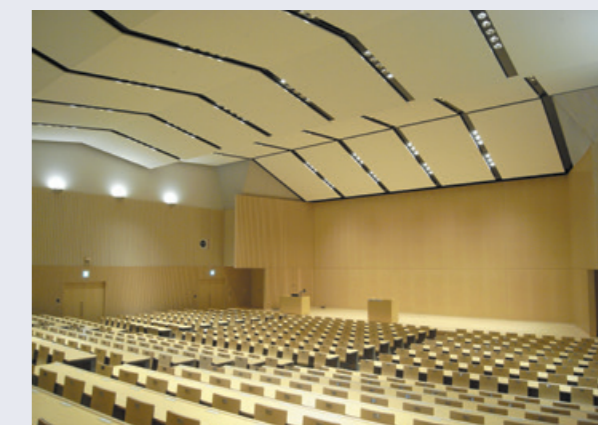
学校法人東京電機大学 理事・監事

理事

- 石塚 昌昭 理事長
- 射場本忠彦 学長
- 平栗 健二 統括副学長
- 吉田 俊哉 工学部長・工学部第二部長
- 大久保 靖 中学校・高等学校長
- 汐月 哲夫 未来科学部教授
- 佐藤 龍 総務部長
- 渡辺 貞綱 元一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 上西栄太郎 一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 平沼 大輔 平沼高明法律事務所弁護士
- 村上 和夫 株式会社オーム社代表取締役社長
- 樫村 幸辰 元理工学部教授
- 工藤 智規 元文部科学省文部科学審議官
- 松尾 隆徳 前一般社団法人東京電機大学校友会理事長

監事

- 高 為重 元文部省大臣官房総務審議官
- 別府 明雄 元株式会社テレビ東京・元板橋区教育委員会教育委員長



自分で考え、判断し、行動する。 人の心を理解し、社会に貢献できる 確かな眼力を持った 研究者・技術者を育成します。



東京電機大学
学長 射場本 忠彦

東京電機大学は創立以来112年となる歴史を重ね、高度な専門性を持つ研究者、技術者を多数輩出しており、理工学分野での社会貢献は多大であります。

今日、多様で複雑な社会情勢下において、安全で安心、豊かで利便な社会の形成を実現すべく、各種のビッグデータに支えられたAIやIoT技術の伸張が進んでいます。しかしAIは「知能部分の外部化」はできても「意識部分のデータ化」はできません。つまり「方向性を決める」「責任を取る」ことは、人間だけにできることです。従って、これからの社会においては、これまでも増して高い専門力が求められるだけでなく、「知恵と感性」をものづくりの土台に載せて「協創」していくことが重要となります。

ハードウェア面のみならず、ソフトウェア面、さらには社会の制度の見直しや、人間の心理、行動などを見据えた、幅広い視野の提案力と技術力が不可欠です。

大切なのは、何が正しいか、何をすべきかを、自分で考え、批判し、判断し、失敗を恐れずに行動することです。人の心を理解し「技術は人なり」の心を備えたより多くの学生・大学院生を社会に送り出すことにより、学園の使命「技術で社会に貢献する人材の育成」を実践していきたいと考えています。

学生には、問題意識を持った当事者として授業に出席し、教員の言葉に潜むフィロソフィーを汲み取っ

てほしいということをいろいろな場面で伝えていきます。さらに実験や実習の経験を積み重ね、自ら考える力を養ってほしいと思います。

アイデアや提案をとことん突き詰め、仲間との議論を重ね、解決策を導き出す学ぶプロセスの中で、学生一人ひとりが主体的に成長していくことを願っています。

本学で学ぶ学生が、自信と夢を持って学生生活に挑戦し続け、高度な技術の専門家、優れた研究者へと成長するよう、私たちは全力で東京電機大学人の育成に努めて参ります。

**コロナ禍の困難にも工夫や発想の転換で、
教育・研究を継続します。
この経験を引き継いでいくことが重要です。**

今般のコロナ禍により「令和元年度修了式・卒業式」「学位記授与」そして「令和2年度入学式」の開催を中止しました。いずれも苦渋の決断でした。いろいろな方の思い、立場などを十分に考えたうえで、学生・教職員すべての健康と安全を最優先として決めたものです。その後、さまざまな形でインターネット経由の授業・行事を展開しています。普段ならばキャンパスに登校して行うものを、さまざま工夫や発想の転換により、オンラインで実現するという、これまでに経験のない苦難に直面しています。授業の手法は変われども、大学の教育・研究の精神は変わらない、変えてはいけません。さまざまな場面においても、学生が自分で考える力を養えるように、そして、教職員を含めて皆が柔軟に対応していかなければいけないと思います。

そしてこの経験を10年後、100年後に引き継ぎ、活かすことが重要です。安全・安心はもとより、予防保全や強靱性等に対する認識の醸成が、社会全体で継続的に受容されていくことを期待するとともに、本学の教育・研究においてもその責任を果たせるよう、取り組みを続けて参ります。



東京電機大学中学校・高等学校
学校長 大久保 靖

予測困難な未来を 生き抜くための力とは？

未知の感染症や自然災害、急速な技術革新の進展など、変化が激しく予測困難な現代社会。そんな時代を生きていく子どもたちには、与えられた課題に対してすばやく正解を導き出す能力以上に、課題そのものを見つけ出し、正解のない課題に果敢に挑戦し続ける能力が求められるはず。また、社会や技術の進歩に対応して生涯学び続けること、「人生百年時代」を自らデザインできる能力も必要でしょう。つまり、柔軟な発想としなやかな感性、打たれ強さのある種の楽天性こそ、これからの時代に必要な資質ではないでしょうか。

教室での学びを通じて論理的思考力と表現力を磨くこと。さまざまな人と出会い多くの経験を重ねながら、世の中には自分とは異なる考え方や感じ方があることを肌で覚えること。中高時代にこの二つを身につけることができれば、先行き不透明な時代を希望と期待を持って生き抜くことができるのではないかと思います。

東京電機大学中学校・高等学校は、生徒のみならず、にそういう学びの場を提供していきたいと考えています。



特集

卒業生スペシャルインタビュー



NTTコミュニケーションズ株式会社
イノベーションセンター テクノロジー部門

名雲 孝昭 さん
Nagumo Takaaki

2011年3月 大学院 未来科学研究科 情報メディア学専攻 修了

2011年4月、NTT セキュアプラットフォーム研究所 (旧:情報流通プラットフォーム研究所) 入社。スマートフォンマルウェアの解析や対策の研究と同時に、日本スマートフォンセキュリティ協会 (JSSEC) の「アプリ解析グループ」のリーダーを務める。2015年7月、NTT コミュニケーションズ株式会社 イノベーションセンター (旧:技術開発部) に転籍。以降現職。

最先端の情報セキュリティ技術で 社会を安全に。快適に。

スマートフォンから企業のネットワークまで、最先端の情報セキュリティの技術開発・運用支援に従事。

企業の枠を超え、業界全体で協調し スマートフォンの安全な利用を促進。

電大では、学部・大学院を通して情報セキュリティの研究に打ち込んでいました。そこで身につけた知識や技術を最先端の通信会社で磨いていくことで、日本の情報セキュリティ技術の向上に貢献したいと思い、NTTに入社しました。

当時は、スマートフォンの普及が進み、情報セキュリティへの意識も高まってきた時期。そこで入社後にまず携わったのが、スマートフォンマルウェアの解析や対策手法の研究です。スマートフォン用アプリの安全性を解析診断するシステムを提案し、特許を申請しました。さらに、スマートフォンの安全な利用促進を図るために、通信キャリア、機器メーカーな

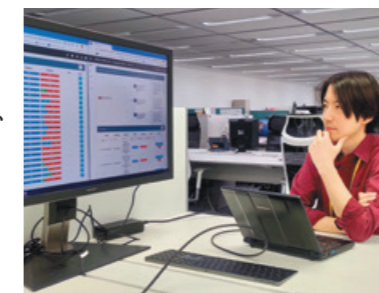


アプリ自動解析技術の分析画面

どが企業の枠を超えて発足させた「日本スマートフォンセキュリティ協会 (JSSEC)」の活動にも参加。ソフトウェア技術とセキュリティ技術のスキルがベースとなっており、電大での学びが実践の場で生かされていることを実感しています。

常に最新の「攻撃」を知り、シミュレーションする。 それが強固な「防御」のためには不可欠。

情報セキュリティの世界は日々劇的に変化を続けており、常に最新技術を用いる攻撃者の手法は巧妙になっています。そのため、先進の防御策を講じるに



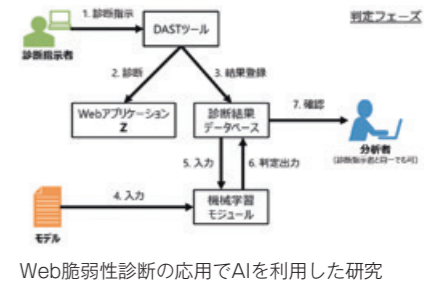
Red Teamの結果分析

は、先進の攻撃手法を知ることが大前提になります。そこで、特定の組織に「模擬攻撃」を仕掛け、セキュリティの脆弱性を発見する「Red Team」と呼ばれるセキュリティ対策が徐々に普及しています。私が現在手掛けているのも、社内外向けRed Teamプロジェクトにおける技術・運用支援です。依頼を受けた企業のシステムに対し、実際の攻撃者が使用するマルウェアやツール、手段などをそのまま踏襲した模擬攻撃を仕掛け、防御策をアドバイスします。AIが導入されるなど、進化し続ける攻撃手法を研究し防御策を考えるのはゴールのない世界のように思えます。しかし、防御側も日々進化しており、Red Teamのように想定される攻撃を事前にシミュレートする手法は組織のセキュリティ向上に大きく貢献しています。

先進の技術を、どれだけ使いやすくてできるか。 “ユーザー目線”を常に持ち続けること。

近年、私が携わっているのが企業のセキュリティ管理体

制の整備や運用に対してセキュリティプロフェッショナルの知見を提供する、「WideAngle」と呼ばれる総合リスクマネジメントサービスです。このサービスにおいて、マルウェアを検知するために、お客様のネットワーク環境をもとに行うセキュリティ検証を担当しました。情報セキュリティ技術の活用においては、開発者が実際に使う運用者のユーザビリティを意識することが重要です。私は技術開発の部門に所属しているの



で、主に開発に携わっていますが、どんなに優れた技術もそれを使う企業のセキュリティ担当者が確実に運用できなければ意味がありません。“ユーザー目線”を大切に、運用担当者との意見交換をしながら仕様変更を繰り返し、先進の機能をより使いやすくするように心がけています。

自ら課題を考え、原因を調査し、解決策を実行する。 電大で学んだ“手を動かすこと”の大切さ。

情報セキュリティに携わるのは、絶えず最新の知識と技術の追究が求められますが、その分とてもやりがいがあります。その礎となっているのは、間違いなく電大での専門分野の学びです。プログラミング、データベース、サーバやネットワークの構築、OSの仕組みなど、実務で必要となる知識や技術は大学の学びを通して広く深く身につけることができました。そして、研究室で養ったのは“手を動かすこと”の大切さです。受け身ではなく、自ら課題を考え、原因を調査し、解決策を実行する。これは、情報セキュリティに限らず、あらゆる分野の技術者にこれからも求められるスキルです。電大には、手を動かし、自ら考える環境が整っています。この土壌で専門性を磨けば、あなたのアイデアが世界を変えるきっかけになるかもしれません。そんな将来の可能性を秘めた技術者とともに未来に歩むことを私も楽しみにしています。

事業報告

2019年度の取り組みと成果

1. 大学・大学院
2. 中学校・高等学校
3. 財政健全化
4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し
5. その他、継続する諸課題
6. 推進のための点検評価
7. 中長期計画の進捗・達成状況



▶ 2019(令和元)年度事業の概要 ◀

国連のSDGsでは、IoTやAIの活用等による超スマート社会(Society5.0)の実現が提唱され、情報関連技術者の育成と進化したものづくり教育、ものづくりをデザインできる主体的な人材育成への期待も高まっている。令和元年度は、大学入試改革の先送り、年度末の新型コロナウイルス感染症の発生による卒業式中止や就職活動の形態変更など不測な事態への対応を迫られた。

本学園は創立以来「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命に、建学の精神、教育・研究理念のもと、学生に教育熱心で親身な学校を目指してきた。そして社会環境の変化に適応し輝き続ける学園の実現を目指し、2014(平成26)年度から10年間を目途とする「学校法人東京電機大学中長期計画~TDU Vision 2023~」(以下「中長期計画」という)を推進してきた。5年目を迎えた2018(平成30)年度には、事業推進状況や社会環境の変化を踏まえ、2019(令和元)年度以降の5年を目指した改訂を行った。その「中長期計画(改訂版)」及びその進捗状況を踏まえて策定した「学校法人東京電機大学 2019(平成31)年度 事業計画書」に基づき、建学の精神、教育・研究理念に沿った各種事業を推進した。

『大学・大学院』では、実学尊重を追求し質の高い教育を目指した。全学的なカリキュラム点検と適正化を推進し、初年次教育、ICTを活用した教育の充実を図るほか、アクティブラーニングやものづくり教育等を強化した。大学院では分野横断型教育の推進、令和3年度大学院改編に向け、文部科学省への設置届出を準備した。また、履修証明プログラム実施など、社会人教育の充実に、研究面では独創性の高い研究や地域連携に力を入れた。その他、仲間づくりやイベント創出により学生の活性化を通じ休退学者を縮減し、めんどうみの良さを向上させた。就職状況は好調を維持したほか、学生募集は、全面的にインターネット出願を実現し、手続きの大幅な効率化が進み志願者増を達成した。

『中学校・高等学校』では、学習指導要領改訂への対応、令和2年度新入生から一人一台のタブレット端末必携化を踏まえ、さらに充実した教育体制を整備するとともに教員のスキルアップを図った。大学入学共通テストへの対応、東京電機大学推薦進学希望者に国公立大学との併願を認める制度の新設等、東京電機大学との高大連携を推進し理工系を意識した募集活動を実施した。また、インターネット出願システムにより受験生情報の一元管理、募集活動の効率化に効果があった。

『財政健全化の推進』については、経常的経費等の削減、各種手当の見直しや人員の適正配置、超過勤務時間の削減等による人件費抑制、外部研究資金の獲得や社会人教育等による収入増及び大学院入学者の定員確保、休退学者の縮減による学費収入の確保を進めた。さらに暫定運用中の千葉ニュータウンキャンパスの維持・管理費等の負担継続と、年次計画による施設・設備・情報インフラ等の改修・更新事業により厳しい財政状況が続いた。

『ガバナンスの構築及び運営組織の見直し』では、学長並びに理事長の交代があり、年度後半から新体制となり、教学における執行体制や教学マネジメントについて周知、理解を求めた。その他、キャンパス計画の推進、情報インフラの更新等、卒業生との連携等、継続する諸課題の推進を図った。

本学園は、私立の教育・研究機関として特色ある人材育成と研究推進、自律した運営体制の確立を目指してきた。教職員は創立者の思いを受け継ぎ、学生・生徒主役を旨としてそれぞれの役割を認識しつつ、互いに連携、協力、新たなチャレンジに挑むことで、未来に責任を持ち、一層輝き続ける強い学園を目指す。

なお、中長期計画~TDU Vision2023~(改訂版)の進捗・達成状況(令和元年度)は、7.中長期計画の進捗・達成状況に示した。

「学校法人東京電機大学中長期計画~TDU Vision 2023~」(改訂版)

社会環境の変化に適応し輝き続ける
東京電機大学の実現

(骨子)

- I. 大学:理工系大学のトップランナーの一員としての評価の確立
- II. 中学校・高等学校:教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- III. 財政健全化の推進
- IV. ガバナンス構築と運営組織の見直し
- V. 推進のための点検評価

1. 大学・大学院

実学教育の更なる追求を目指すべく、令和2年度から全学導入する初年次科目「東京電機大学で学ぶ」開講など特色ある質の高い教育を推進する一方、「ものづくりセンター」では、3Dプリンタを始めとする利用者倍増など、積極的な活用がみられた。大学院では、学士・修士課程連携のカリキュラムを推進し、さらに、令和3年度大学院改編に向け、文部科学省へ設置届出の準備をおこなった。CySecや実践知プログラムといった履修証明プログラム実施など、社会人教育の充実に力を入れた。研究面では、独創性の高い研究や地域連携に力点をおき推進を図った。

入学年次から卒業年次までの一貫した人材育成を充実させ、ワークショップやインターンシップ参加呼びかけ、学生の仲間づくりやイベントの活性化、学生支援体制の充実等を通じた休退学者を縮減し、めんどろみの良さを向上させた。

IRをはじめとする学生募集に関する各種データを徹底分析、さらに、全面的にインターネット出願を実現し、手続きの大幅な効率化が進み志願者増を達成した。

また、令和元年度私立大学等改革総合支援事業において、「特色ある教育の展開」「特色ある高度な研究の展開」「地域社会への貢献;地域連携型」「社会実装の推進」の4タイプの全項目で選定された。

令和2年2月の新型コロナウイルス蔓延の影響は大きく卒業式開催の見送りをはじめ、様々な対応が迫られ大学の運営に大打撃があった。その中で大学のイベントや授業をオンラインで実施すべく準備に注力した。

1. 実学教育の更なる追求を通じた質の高い教育を目指す

1 令和3年度カリキュラム改編に向けた「全学カリキュラム改編検討委員会」を発足

2 特色ある教育の実施

- 前期に初年次科目「東京電機大学で学ぶ」を開講(履修者136名)、各種アクティブラーニングの手法をシラバスに記載
- インターンシップのガイダンス・幹旋会・報告会に総合計2,852名の参加、学生への興味喚起を高めインターンシップ参加学生は合計延べ928名

3 データの活用による本学ならではの教育のイノベーション・質保証

- FD/SDセミナー「IR情報を活用した学びの可視化の取り組み」を開催し、IRデータを教育改善に繋げるための取り組みを共有(7月)
- 仕事研究セミナーにおけるアンケート結果過去3年分を分析し、フィードバック、結果を踏まえ、「技術展示会」を開催(12月)
- 企業懇談会、仕事研究セミナー等の参加企業に対しWEBアンケートを実施、結果を次年度5月下旬に公表

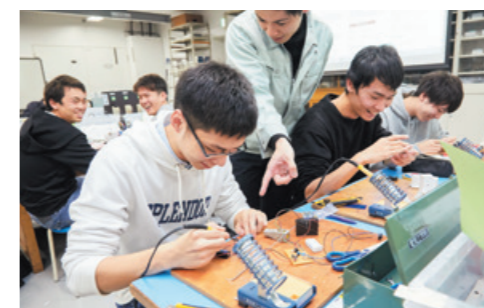
4 教職員のスキル向上の推進

- 教員の自己点検評価の推進(2回目)
- ウェブを利用したビデオ視聴によるハラスメント防止に関する研修実施、参加者増加
- 令和2年度の初年次科目担当者に向けファシリテーション方法のFDを実施
- 教学部門職員の学内FD/SDに全員参加、事務職員を会議メンバーとして参加など、教職協働による支援体制の強化推進

5 ものづくりセンター

- 安全講習38回開催、受講者数750名、加工講習71回開催、受講者数113名
- 3Dプリンタの利用をはじめ、利用者が倍増(利用件数2,016件)
- 技術相談・指導653件、加工委託154件

6 ものづくりセンター鳩山、分析センター(仮称)の学内関係部署との協議開始



2. 大学院に軸足をのいた先導的教育で高度技術者育成を目指す

1 学士課程・修士課程連携カリキュラムの推進

- 学士課程・修士課程連携カリキュラムマップの作成並びに学内外への周知
- 理工学部・理工学研究科の横型・縦型連携のオナーズプログラムの学内外への周知

2 若手研究者(博士課程学生)育成支援制度の令和3年度導入に向けた諸準備

3 大学院修士課程への内部進学への推進

- 令和3年度大学院改編に関し、文部科学省への事前相談を踏まえ、設置届出書類提出準備
- 大学院進学ガイダンス、大学院紹介イベント(前期:251名、後期:195名参加)の実施による内部進学を推奨
- 大学院進学者のための「国際化プロジェクト」中原大学にて実施(進学予定者19名参加)

4 大学院における分野横断型教育システムとしての、「創造工学ユニット」実現準備、「オナーズプログラム」開設準備

3. 社会人教育の充実を目指す

1 履修証明プログラムの履修者数 CySec61名(内、学内者10名)、実践知プログラム17名(内、学内者14名)

2 自治体、企業などとの連携を含めた教育プログラムの開発

- 社会人教育の情報を集約したウェブページ運用開始(10月1日~)
- 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(通称TJUP)を形成する大学・短期大学間で職員の人事交流(出向及び受け入れ)実施、FD/SDの実施

4. 独創性の高い研究の更なる推進をはかる

1 科研費2億5百万円、奨励寄付金 9千9百万円、公的研究費・受託研究費・共同研究費2億5千万円 獲得

2 「イノベーションジャパン2019」(8月)、「新技術説明会」(10月) 広報活動推進

3 産学連携交流会にて、ものづくりセンターに関する講演、見学会を実施

4 第1回CRCフォーラム(10月18日)の研究発表者による研究グループ形成

5. グローバルな視点を持つ学生の育成を目指す

1 外国人留学生の質の向上

- 学業成績や生活不良の留学生に対し、留学生カウンセラー対応(相談件数53件)
- 日本語が苦手な留学生に日本語個別指導やチューターの設置等の対応
- 外部の留学生対象の「TDU数学講座」(9月~11月全9回・26名参加)実施
- 「最重要」校(46校)はじめて日本語学校等訪問を94件実施

2 博士課程の英語版学生要覧、英語版入試要項の完成

3 「はじめての留学説明会」「新入生対象とした留学説明会」参加は375名に増加

- 4 豪州・クイーンズランド工科大学、台湾・元培医事科技大学、タイ・マハサラカム大学と学術交流協定締結
- 5 学長就任(10月1日付)、理事長就任(11月1日付)において英語版、中国語版本学ウェブページに就任メッセージ掲載
- 6 外国人講師によるグローバルSD研修 英語での会話を重点に開催(参加者4名)

6. 目標とする大学像に相応しい受験競争力を備える

1 ホームページ、各種メディアを通じたブランディング力の向上

- リリース39件中、32件が新聞、ウェブ媒体に掲載
- オピニオンリーダー企画 新規2名を追加し、全体で15名掲載
- ウェブ 活躍する電大人 124件掲載、サイネージや学園広報誌へも展開

2 受験者数の増加

- 各種受験メディアで出願促進、一般入試における受験者数22,000名の確保
- 英語外部試験は、前年比173%となり大幅に志願者を増加させることに成功
- オープンキャンパス来場者数 前年度比110%、促進DMは、コンテストで銀賞
- 「大学で何を学ぶ?」と「10のキーワードで知る東京電機大学」クリック率は倍増
- YouTubeによる動画を公開 視聴回数165,627回、ウェブへの誘導促進

3 模試連動型のダイレクトメール等「ナーチャリング広報」による接触者数を維持

4 学生募集に関するデータ類の整備、分析

- 大学入学共通テストへの対応を含めた2021年度入学者選抜を策定、公表
- 2020年度年度内入試の募集要項をウェブ化し、インターネット出願を実現、大幅な効率化
- IRデータを利用し学力分析、指定校選定と推薦基準の見直しに活用



7. めんどうみの良さの向上を目指す

1 入学年次から卒業年次までの一貫した人材育成支援体制の充実

- 鉄道総研、メーカー等への職業体験 延べ26名が参加
- ミクシーセキュリティワークショップ実施(24名が参加)
- 企業による技術展示会 企業21社の展示 209名が参加
- 「挑戦する力」を養う コミュニケーションミニ講座 2回開催
- 工学院・理科大・都市大・電大での共催 課題解決型ワークショップ講座を2回開催
- 学部3年、院1年のインターンシップ 延べ914名が参加
- 資格取得対策講座(技術士、電気工事士、情報処理関連、宅建)合計22回開催
- 就職活動準備を目的とした「キャリア・就職ガイダンス」3回実施、782名が参加
- 低学年次向けインターンシップを10回実施し、延べ1,203名が参加
- 自己分析の向上を目的とした低学年時向けの就職支援行事(課題解決型インターンシップ体験講座(4回)、自己アピールを高める自己分析講座(4回)、学部低学年次生のための就職対策講座(3回))延べ39名参加



2 学生厚生の実践

- 学生団体加入率増加を目指しリーダーズキャンプを12月24日、2月18日に実施
- 地域イベント(千住例祭神輿担ぎ、学園通りフェスタでの運営協力、学生団体の参加、マルイ主催の千住フェスタに参加)実施
- 新入生対象の精神健康調査(GHQ)の実施、各学科長へ報告、学生支援に活用
- 学生生活支援委員会配下の専門委員会として相談室専門委員会設置(2019年9月)学生の多様化・問題の複雑化等に伴い、学内組織とのさらなる連携に対応
- 学生アドバイザーによる長期授業欠席者及び成績不振者への指導体制の再編成
- 学生参加型イベント ドッジボール大会を新規開催し、千住・鳩山 36名の参加
- 学生及び教職員の協働プロジェクトとして学生食堂「樹海」の改修工事を実施

3 休退学者の縮減(仲間づくり支援と学生団体加入率60%の実現)

- 新入生を対象としたオリエンテーション内における仲間づくり支援を実施
- 12月開催のスポーツ大会は143名の参加者
- 学生団体加入率は、千住 57.3%、鳩山 49.6%
- 学生アドバイザー及び理工学部基礎教育センターによる学修指導体制を継続
- UNIPAのプロファイル機能を用いて学生相談室等との情報共有や連携
- 未履修学生に対する今後の学修計画に対する相談を継続的に実施
- 学生アドバイザーによる長期授業欠席者及び成績不振者への指導
- 卒業延期者の減少を狙い成績不振者には、学科長による退学予備勧告、学部長による退学勧告面談を実施
- 情報環境学部3月期卒業判定において、卒業見込者が93.5%、卒延者は32名



8. 地域連携の推進をはかる

1 ものづくりセンター 研究推進社会連携センター、足立区と連携、産学連携交流会にて、講演・見学会、経営同友会 第51回特別講演会にて講演実施

2 各キャンパスの地域連携の活性化

- 郡山市の水素研究会への教員参加、東京城東地域連携(東京東信用金庫・企業・大学)への参画
- TDU産学交流会の役員会・例会へ、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)の幹事会や運営協議会に参加、各取り組みの実施に当たり積極的に連携
- 私立大学等改革総合支援 事業タイプ3の採択
- 科学・ものづくり体験教室(参加74名)、科学・ものづくり体験教室フォロー講座(参加25名)を開講
- CRC PRESSについては、年3号(6月・10月・2月)を発行(冊数 1,300部)
- 協定書を締結している自治体(6市区町村)との「地域連携推進会議」を実施
- 創業支援施設「かけはし」の運営補助金獲得、インキュベーションオフィスは100%の入居率を維持
- 足立区6大学実務者会議に参加し、自治体・他大学と協議、適宜情報交換
- 子ども大学はとやまの運営と講座 鳩山町や山村学園短大と連携・実施(全6回)
- 埼玉県立松山高等学校のSSH事業に対し、本学教員による物作り指導を実施(全7回)
- 足立区の小学4年生を対象とした「小学生ものづくり教室」を開催(8/6、参加50名)
- 「夏休み親子でドローン体験」を開催(8/5、参加40名)

9. キャンパス満足度の向上を目指す

1 教職員の相互理解推進

- 異なる部署の事務職員間でグループワーク等を通じて交流が図れた法人主催「主事・技師・書記・技手に対する研修」実施(8月、9月)
- ハラスメント相談員対象研修(7月実施)は、教員11名、事務職員10名が出席し、グループディスカッションを通じて教員と事務職員間で交流

2. 中学校・高等学校



学習指導要領改訂をふまえ、現行教育課程の課題を精査するとともに、新教育課程の基本方針案を策定した。中教審・学習指導要領に示された授業改善の視点である「主体的対話的で深い学び」を日常の授業に取り込み、教科指導の質的向上を目指し教員の研修機会を充実させた。東京電機大学推薦進学希望者に国公立大学との併願を認める制度を新設し、50名の志願があった。

令和2年度新生から一人一台のタブレット端末を持たせる計画を進めた。

本校通学圏内に所在する塾・中学校への個別訪問を継続して実施、本校の認知度アップと受験者数の増加を目指した。インターネット出願システムを通じて受験生情報を一元管理し、塾訪問等にも利用、効率化等の効果を発揮した。

令和2年2月には新型コロナウイルス感染症が拡大し、様々な対応が迫られ学校運営に大きな影響があった。

1. 教育改善と高大連携

- 1 カリキュラムマネジメント会議(12回開催)にて現行教育課程の課題検証と新教育課程の基本方針案策定
- 2 低学年の授業サポートにあたるTA制度 授業運営支援、教員の負担軽減に効果
- 3 高等学校創立80周年記念講演会を開催(12月19日、1,300名が出席)
- 4 部活動ガイドラインを策定
- 5 国公立大と併願可能な電大推薦制度を新設、専願36名、併願14名 合計50名志願



2. 収支改善

- 1 令和3年度新生からの学費改定に向けた検討
- 2 令和2年度入試 中高合わせて定員の1.05倍超の入学者を確定
- 3 環境整備等に関するサポート募金横ばい、新たな募金方法の展開



3. 継続課題

- 1 生徒募集活動としての塾訪問数は昨年を上回る4,650教室を実現
- 2 WEB出願は接触者データの活用、各種申込みに効果を発揮

3. 財政健全化

財政健全化実行計画の目標である事業活動収支差額比率10%以上を達成するには、積み残し課題となっている人件費の削減による人件費比率の抑制、年次計画で実施している施設・設備の改修・更新事業等が影響を及ぼしている。

このような状況のなか、当面の財政改善目標を2021(令和3)年度に事業活動収支差額を比率3%以上とし、2019(令和元)年度は、目標達成に向け収入・支出において、次の項目について取組み改善を図った。

1. 収入の部

- 1 大学院及び大学の学費改定に伴う学年進行による学生生徒納付金収入の増加

2. 支出の部

- 1 千葉ニュータウンキャンパスの維持・管理費に係る経費の減少
- 2 勤務間インターバル制度の試行導入による超過勤務時間の抑制
- 3 施設・設備の改修・更新事業の一部見直しによる事業費の減少

4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

教学における執行体制や教学マネジメントについて周知、理解を求めるとともに、技術進歩の早いICTのトレンドに合わせた大幅な計画変更をしながら情報戦略の推進とIRデータの利活用促進を図った。人材育成の視点での省庁・他大学との人事交流、各評価制度の推進など人事施策、事務部署の統廃合・再編の準備を実施した。

千葉ニュータウンキャンパスは、暫定運用期間(2020(令和2)年3月まで)終了後の施設利用方法について環境を整えた。また、中長期更新、改修計画等に基づき、各キャンパスの施設整備を行ったほか、情報インフラでは、各システムの更新等を実施した。

1. ガバナンスの構築

- 1 学長選考委員会にて学長選考を実施
- 2 大学執行部と学部との情報交換、情報共有化、学長と各室長・センター長との意思疎通が円滑化、意思決定の迅速化を実現
- 3 教授会等を通して、執行体制や教学マネジメントについての周知
- 4 IRセンターで集計・分析したデータ等を基に各部署と情報交換、業務に活用
- 5 BIツール導入、データ可視化を促進
- 6 学生アンケート集計結果および自由記述の記載内容等について学内者向けに公開



2. 管理運営組織の見直し

- 1 人材育成として事務職員1名の文部科学省派遣、女子栄養大学との人事交流開始
- 2 情報環境学部事務部の廃止、研究推進社会連携センター再編等の準備
- 3 SDとしての事務・技術職員の学内研修 受講者の選択制導入

3. 人事諸施策の策定

- 1 大学教員:「教員の自己点検評価制度」全教員が目標の達成状況入力、評価者の客観的評価実施
- 2 特定教授の委嘱手続き時に自己点検評価結果の活用を決定
- 3 中高教員:20代~50代の専任教員のほぼ全員と校長個人面談を実施
- 4 事務技術:令和2年度より導入の「同一労働・同一賃金」を踏まえ、非正規雇用の点検着手



4. キャンパスの利活用

- 1 千葉ニュータウンキャンパス8号館(旧建技研)の継続運用に関する規程を制定、運用準備を完了
- 2 千葉ニュータウンキャンパス暫定運用期間終了後の当面の取扱い方針を決定

5. 各キャンパス施設設備の整備

1 施設設備の中長期更新・改修計画に基づく事業(7事業)計画通り完了

- 東京千住キャンパスセキュリティ設備更新工事(第1期)
- 東京千住キャンパス防犯カメラ設備更新工事(第1期)
- 埼玉鳩山キャンパス11・12号館空調機更新工事(第4期)
- 埼玉鳩山キャンパス スクールバス更新
- 東京小金井キャンパス 教室什器更新(第1期)
- 東京小金井キャンパス体育設備改修工事
- 東京小金井キャンパス電話交換機更新工事

2 事業計画に基づく特別事業(2事業)を計画通り完了

- 埼玉鳩山キャンパス オナズプログラム教育研究機器等及び施設整備
- 埼玉鳩山キャンパス 第2学生食堂「樹海」改修工事

3 情報戦略に係わる短・中・長期計画の大幅見直し後「教育・研究」「法人・事務」「基盤」の3区分で令和元年度分の整備実施

- 教育研究システム更新(PC環境、コミュニケーション環境、アクティブラーニング環境、中高タブレット環境、GAKUEN EXサーバセキュリティ対応)
- 法人システム更新(事務PCシステム更新、ZeeMライセンス追加、ワークフロー(Documal)セキュリティ対応)
- IRデータベースシステム更新(統合DB(データ移行、データ連携・可視化ツール構築))
- 東京千住キャンパス教室AVシステム更新(第1期)(サイネージ環境整備)
- 新規項目(新MARCO等環境構築、トータルコーディネート委託)



5. その他、継続する諸課題

学園力強化を目指し、卒業生との連携強化を促す環境作りに注力した。また、さらなる募金活動の推進を図ったほか、出版局は計画に基づき体制整備を行った。その他、理事会からの検討付議事項、認証評価結果の対応の推進を図った。

1. 卒業生連携と募金活動

1 校友会創立110周年記念講演会・式典・祝賀会の挙行(10月26日、422人参加)

2 「学校法人東京電機大学サポート募金」活動

- 目標達成(目標6千万円:実績約6485万円:108.1%、寄付件数 1,030件)
- インターネットを利用した募金は利用者増、「TDU本deサポート募金」運用開始



2. 出版局

- 1 刊行計画に基づく質の高い出版物の刊行(新刊21点)
- 2 教科書や技術書等の重視(新刊教科書4点)

3. 理事会からの検討付議事項等

- 1 大学:超過講義の取扱い明確化、教員人事制度の諸準備推進、特定教授制度開始準備
- 2 中学校・高等学校:定年延長者の処遇(人材活用方法)の見直し
- 3 事務・技術:各種手当の見直しや非正規雇用者の見直し

4. 2016(平成28)年度認証評価結果の対応

- 1 次年度大学基準協会へ提出する「改善報告書」の準備(努力課題2件)



6. 推進のための点検評価

中長期計画改訂に伴い改訂項目について「4年間の総括」を取りまとめ、その際に中長期計画に可能な範囲で数値目標設定が付帯された。令和元年度は、中長期計画工程表(改訂版)の各項目の進捗状況を確認した。

7. 中長期計画の進捗・達成状況

本学園は、2012(平成24)年度に学園創立100周年記念事業の中核であった東京千住キャンパスを開設し、次の100年に向けた基盤整備が整った状況を踏まえ、社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現を目指すべく、2014(平成26)年度から10年間を目途とする「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」を策定した。

この中長期計画に基づき、2014(平成26)年度から2018(平成30)年度の5年に亘り、全学的改編、東京千住キャンパス5号館竣工、ものづくりセンター開設、情報環境学部等の千住移転など大型事業を推進した。

この間、社会情勢の変化、また、中長期計画を推進する中で新たな課題も顕在化し、中長期計画の5年目となる2018(平成30)年度には、学園を巡る状況にも計画策定時と大きな変化が見られた。こうした状況を踏まえ、中長期計画の趣旨を尊重しつつ、2018(平成30)年度に、2019(令和元)年度以降に向け、中長期計画全般についての改訂を行った。

改訂した中長期計画1年目であり、10年間の中長期計画の後半1年目にあたる2019(令和元)年度は、概ね計画どおり進捗した。

2023年度 (令和5年度)	●学園の中長期計画の達成 ・社会環境の変化に適応し輝き続ける 東京電機大学の実現
2019年度 (令和元年度)	●4月 学園中長期計画改訂スタート
2018年度 (平成30年度)	●9月 出版局の千住移転 ●4月 情報環境学部・同研究科の千住移転・開講
2017年度 (平成29年度)	●9月 学園創立110周年 ●4月 東京千住キャンパス5号館開設
2014年度 (平成26年度)	●4月 学園中長期計画 「TDU Vision 2023」スタート
2013年度 (平成25年度)	●1月 財政健全化委員会答申 ●12月 中学校・高等学校将来計画委員会答申 ●4月 千住東グラウンド取得
2012年度 (平成24年度)	●3月 将来構想企画委員会答申(その2) 「20年後の東京電機大学のあるべき姿」 ●11月 将来構想企画委員会答申(その1) 「街区活用のアカデミックプラン」の基本方針 ●4月 東京千住キャンパス開設
2007年度 (平成19年度)	●9月 学園創立100周年 「東京電機大学人の基本姿勢」策定
2005年度 (平成17年度)	●10月 将来構想企画委員会答申 ・中長期計画策定

目標達成に向けた主なステップ

財務情報

- 財務ハイライト
- 資金収支計算
- 活動区分資金収支計算
- 事業活動収支計算
- 貸借対照表

財務の概要 (2019年度)

財務ハイライト

学校法人東京電機大学の2019年度決算は、2020年5月26日開催の評議員会・理事会において承認されました。2019年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算

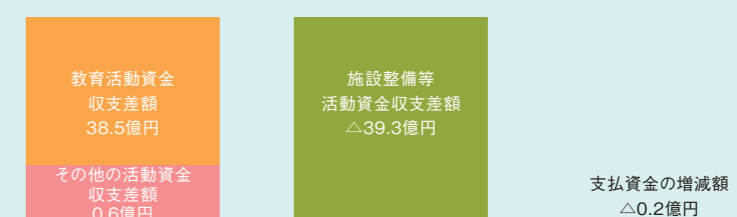
前年度繰越	72.9億円
資金収入	186.1億円
資金支出	186.3億円



この結果、翌年度繰越支払資金は72.7億円となりました。

活動区分資金収支計算

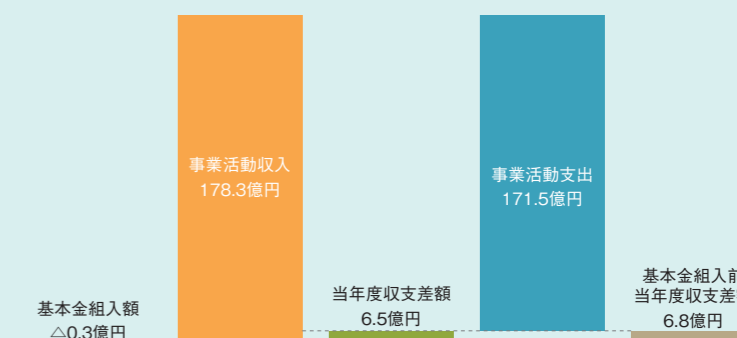
教育活動	38.5億円
施設整備等活動	△39.3億円
その他の活動	0.6億円



この結果、支払資金の増減額は△0.2億円となりました。

事業活動収支計算

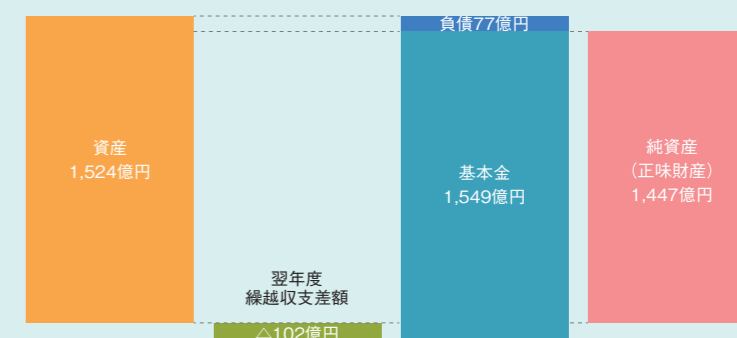
事業活動収入	178.3億円
事業活動支出	171.5億円
基本金組入額	△0.3億円



この結果、当年度収支差額は6.5億円、事業活動収支差額比率は3.8%となりました。

貸借対照表

資産の部	1,524億円
負債の部	77億円
基本金	1,549億円



この結果、翌年度繰越収支差額は△102億円となりました。

2019年度に学園が優先的に取り組んだ主な事業

【一般会計】

(1) 施設・設備の改修・更新事業

事業内容	金額
教育研究システム更新(PC環境、コミュニケーション環境、アクティブラーニング環境、中高タブレット環境、GAKUEN EXサーバセキュリティ対応)	268,126
法人システム更新(事務PCシステム更新、ZeeMライセンス追加、ワークフロー(Documal)セキュリティ対応)	40,521
IRデータベースシステム更新(統合DB(データ移行、データ連携・可視化ツール構築))	13,047
東京千住キャンパス 教室AVシステム更新(第1期:サイネージ環境整備)	58,740
新MARCO等環境構築、トータルコーディネート委託	45,552
東京千住キャンパス セキュリティ設備更新	68,475
東京千住キャンパス 防犯カメラ設備更新	18,895
埼玉鳩山キャンパス 11・12号館空調機更新工事	29,862
埼玉鳩山キャンパス スクールバス更新	96,457
東京小金井キャンパス 教室什器更新	15,983
東京小金井キャンパス 体育設備改修工事	8,689
東京小金井キャンパス 電話交換機更新工事	5,216
計	669,563

(2) 施設・設備の充実事業

事業内容	金額
フーリエ変換赤外分光光度計(工学部)	6,380
ワイヤ放電加工機(工学部)	14,179
電子プローブマイクロアナライザ(工学部)	60,867
卓上型核磁気共鳴装置(理工学部)	15,070
東京小金井キャンパス サブアリーナ照明更新工事	1,980
東京小金井キャンパス 柔道場照明更新工事	1,276
計	99,752

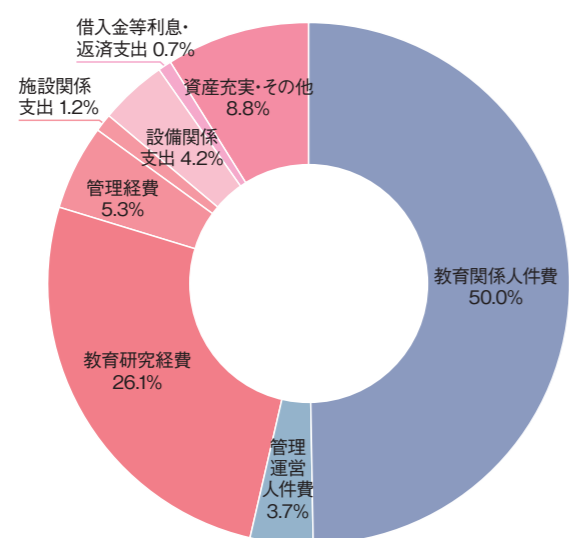
【特別事業会計】

(1) 臨時事業

事業内容	金額
埼玉鳩山キャンパス 7号館学生食堂改修工事	59,791
オナズプログラム機器・施設整備(理工学研究科・理工学部)	66,736
計	126,527

学費・補助金収入の使われ方 (2019年度決算数値より)

2019年度の学費収入と国や地方公共団体等からの補助金収入の合計を100とした場合の使用状況は次のとおりです。



経費の内訳	比率
教育関係人件費	50.0%
管理運営人件費	3.7%
教育研究経費	26.1%
管理経費	5.3%
施設関係支出	1.2%
設備関係支出	4.2%
借入金等利息・返済支出	0.7%
資産充実・その他	8.8%

次のページから学校法人会計基準に基づく2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務計算書を報告いたします。

資金収支計算

資金収支計算書について (学校法人会計基準第6条の要旨)

当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	14,162,227	14,129,280	32,947
手数料収入	592,462	711,225	△ 118,763
寄付金収入	126,393	171,230	△ 44,837
補助金収入	1,735,241	1,766,116	△ 30,875
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	268,470	257,989	10,481
受取利息・配当金収入	180,810	174,981	5,829
雑収入	462,383	567,695	△ 105,312
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,452,329	2,448,578	3,751
その他の収入	1,427,487	1,153,508	273,979
資金収入調整勘定 ^(※1)	△ 2,554,443	△ 2,768,511	214,068
前年度繰越支払資金	6,811,965	7,291,893	△ 479,928
収入の部合計	25,665,324	25,903,984	△ 238,660

※1 資金収入調整勘定：当年度の収入科目が、前年度又は翌年度に入金となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に徴収済みの前受額を「前期末前受金」、当年度末の未収額を「期末未収入金」として表示します。

■予算と決算の差異の主な理由

①収入の部

- 学生生徒等納付金収入(32,947千円減少)
東京都の高等学校授業料軽減助成金収入の増加による減少(補助金収入へ計上)及び学費納入者が積算人数より減少したため、予算計上額を下回りました。
- 手数料収入(118,763千円増加)
志願者数の増加により、予算計上額を上回りました。
- 寄付金収入(44,837千円増加)
サポート募金及び研究奨励寄付金の増加により、予算計上額を上回りました。
- 補助金収入(30,875千円増加)
国庫補助金の私立大学等経常費補助金(私立大学等改革総合支援事業の選定数)の増加及び東京都の高等学校授業料軽減助成金収入の増加により、予算計上額を上回りました。
- 付随事業・収益事業収入(10,481千円減少)
受託研究等の減少により、研究収入が予算計上額を下回りました。
- 雑収入(105,312千円増加)
依願退職者等の増加による財団からの交付金収入及び施設の学外貸与件数の増加による施設設備利用料収入が予算計上額を上回りました。
- その他の収入(273,979千円減少)
施設・設備の改修更新事業の計画変更による減価償却引当特定資産の取崩額の減少及び前期末未収入金収入の予算未計上が差異となりました。

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,527,153	8,539,023	△ 11,870
教育研究経費支出	4,527,183	4,259,234	267,949
管理経費支出	975,804	854,375	121,429
借入金等利息支出	1,083	1,082	1
借入金等返済支出	103,250	103,250	0
施設関係支出	237,918	235,737	2,181
設備関係支出	1,258,975	727,271	531,704
資産運用支出	3,817,033	3,855,575	△ 38,542
その他の支出	107,970	276,577	△ 168,607
予備費	(67,229)	32,771	32,771
資金支出調整勘定 ^(※2)	△ 11,748	△ 218,268	206,520
翌年度繰越支払資金	6,087,932	7,270,128	△ 1,182,196
支出の部合計	25,665,324	25,903,984	△ 238,660

※2 資金支出調整勘定：当年度の支出科目が、前年度又は翌年度に支出となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に支払資金の支出となったものを「前期末前払金」、翌年度以後に支払資金の支出となるものを「期末未払金」として表示します。

■予算と決算の差異の主な理由

②支出の部

- 人件費支出(11,870千円増加)
大学教員の採用計画と採用者数との差異により教員人件費は減少したものの、職員採用数の増加による職員人件費及び依願退職者等に係る退職金の支払いが増加したため、予算計上額を上回りました。
- 教育研究経費支出(267,949千円減少)
- 管理経費支出(121,429千円減少)
- 設備関係支出(531,704千円減少)
施設・設備の改修・更新事業の計画変更と実施事業の経費と、光熱水費及び修繕費の節減により、予算計上額を下回りました。
- 資産運用支出(38,542千円増加)
減価償却額の確定による減価償却引当特定資産の繰入及び次年度繰越額の確定による委託研究等引当特定資産の繰入により、予算計上額を上回りました。
- その他の支出(168,607千円増加)
貸付金支払支出の減少及び前期末未払金支払支出の増加等が差異となりました。

活動区分資金収支計算

活動区分資金収支計算書について (学校法人会計基準第14条の2要旨)

資金収支計算書を組み替えて、現預金の流れを活動区分ごとに把握することができます。

区 分	金 額	内 容 説 明
教育活動資金収支差額	38.5億円	キャッシュベースでの本業の教育活動の収支状況を見ることができます。
施設整備等活動資金収支差額	△ 39.3億円	当年度に施設設備の購入等があったか、財源がどうだったかを見ることができます。
その他の活動資金収支差額	0.6億円	借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。
支払資金の増減額	△ 0.2億円	

事業活動収支計算

事業活動収支計算書について (学校法人会計基準第15条の要旨)

当該年度の①教育活動、②教育外活動の経常的な活動、①、②以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支差額 ①	△ 117,002	460,647	△ 577,649
教育活動外収支差額 ②	183,497	176,482	7,015
経常収支差額 ③	66,495	637,129	△ 570,634
特別収支差額 ④	110,000	42,516	67,484
予備費	43,661	—	43,661
基本金組入前 当年度収支差額 ⑤	132,834	679,645	△ 546,811
基本金組入額合計 ⑥ (*1)	△ 570,416	△ 27,415	△ 543,001
当年度収支差額	△ 437,582	652,230	△ 1,089,812
前年度繰越収支差額	△ 17,679,597	△ 10,813,718	△ 6,865,879
基本金取崩額 (*2)	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 18,117,179	△ 10,161,488	△ 7,955,691

(参考)

事業活動収入計	17,527,986	17,827,831	△ 299,845
事業活動支出計	17,395,152	17,148,186	246,966

※1 学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額を表します。基本金取崩額がある場合にはその差額を表示することになりますが、取崩額が組入額を超える場合には0表示となります。

※2 資産売却や処分等による当該基本金の取崩額を表します。基本金取崩額が組入額を超える場合には、その超える金額を表示します。

■予算と決算の差異の主な理由

- ①教育活動収支差額(577,649千円増加)**
【経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況】
事業活動収入では、手数料、寄付金(施設設備寄付金、現物寄付以外の寄付金)、補助金、雑収入が増加し、事業活動支出では、教育研究経費と管理経費における施設・設備の改修・更新事業の計画変更と実施事業の経費と、光熱水費及び修繕費の節減により減少したため、教育活動収支差額は予算計上額を大幅に上回りました。
- ②教育活動外収支差額(7,015千円減少)**
【経常的な収支のうち、財務活動による収支状況】
事業活動収入の受取利息・配当金が金利低下の影響を受け減少したことにより、予算計上額を下回りました。
- ③経常収支差額(570,634千円増加)**
【経常的な収支バランス:①教育活動収支差額+②教育活動外収支差額】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、予算計上額を上回りました。
- ④特別収支差額(67,484千円減少)**
【資産売却や処分等の臨時的な収支状況】
機器備品及び図書を除却に伴う資産処分差額を特別支出に計上しましたが、特別収支差額は予算計上額を下回りました。
- ⑤基本金組入前当年度収支差額(546,811千円増加)**
【毎年度の収支バランス】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加したことにより、基本金組入前当年度収支差額は予算計上額を上回りました。
- ⑥基本金組入額合計(543,001千円減少)**
【学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額】
設備関係支出が減少したことにより、基本金組入額が予算計上額を下回りました。

基本金の組入額の内訳及び2020年3月末の基本金は、次のとおりです。

	基本金組入額	2020年 3月末 基本金
〈第1号基本金〉		155,877,094千円
本年度取得資産額 (自己資金による支払分)	963,009千円	
本年度取得資産額 (寄贈分)	43,333千円	
前年度取得資産に係る 未払金の本年度支払額	57,977千円	
本年度除却額	△ 1,036,904千円	27,415千円
〈第2号基本金〉		0千円
該当なし		
〈第3号基本金〉		5,500,000千円
該当なし		
〈第4号基本金〉		1,120,000千円
該当なし		

貸借対照表

貸借対照表について (学校法人会計基準第32条の要旨)

資産、負債及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して、当該会計年度末の財産の状態を表すものです。

資産の部

(単位：千円)

科目	年度	2019末	2018末	増減
固定資産		144,843,223	144,314,675	528,548
有形固定資産		103,278,677	105,679,811	△ 2,401,134
特定資産		40,379,398	37,412,581	2,966,817
その他の固定資産		1,185,148	1,222,283	△ 37,135
流動資産		7,540,791	7,525,701	15,090
資産の部合計		152,384,014	151,840,376	543,638

負債及び純資産の部

(単位：千円)

科目	年度	2019末	2018末	増減
負債の部		7,668,408	7,804,415	△ 136,007
固定負債		4,109,949	4,032,805	77,144
流動負債		3,558,459	3,771,610	△ 213,151
純資産の部		144,715,606	144,035,961	679,645
基本金 (*1)		154,877,094	154,849,679	27,415
繰越収支差額		△ 10,161,488	△ 10,813,718	652,230
負債及び純資産の部合計		152,384,014	151,840,376	543,638

※1 学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額です。

■貸借対照表各科目の主な増減理由

- ①資産の部**
 - 有形固定資産(2,401,134千円減少)**
当年度の減価償却資産の資産価値減少額(当期償却額)及び除却額が該当資産の取得額を上回るため、有形固定資産が減少しました。
 - 特定資産(2,966,817千円増加)**
減価償却資産の更新資金の積立て等により、特定資産が増加しました。
 - その他の固定資産(37,135千円減少)**
長期前払金の一部流動資産への振替及び長期貸付金の返済により、その他の固定資産が減少しました。
- 流動資産(15,090千円増加)**
未収入金及び前払金の増加により、流動資産が増加しました。
- ②負債の部**
 - 固定負債(77,144千円増加)**
退職給与引当金の繰入額の増加により、固定負債が増加しました。
 - 流動負債(213,151千円減少)**
日本私立学校振興・共済事業団への借入金の完済及び授業料の前受金等の減少により、流動負債が減少しました。
- ③純資産の部**
 - 〈基本金〉
 - 第1号基本金(27,415千円増加)**
固定資産の取得により、基本金を組み入れました。
 - 〈繰越収支差額〉
 - 翌年度繰越収支差額(652,230千円増加)**
教育活動収支の改善により、翌年度繰越支出超過額が減少しました。

Information & Data



◆ 大学院各研究科の取り組み

先端科学技術研究科

- 1 研究指導体制の充実と継続的な課程博士、論文博士の輩出に努めました。また、修業年限内の学位授与促進のために、博士課程（後期）学生の国際会議参加費及び海外旅費の補助を行いました。
- 2 外国からの入学者を受け入れるため、外国語（英語）で講義・研究指導を行い、博士号を取得できる課程として、2020（令和2）年度より、先端科学技術研究科全専攻に設置するinternationalプログラムについての専用ページを本学ホームページに用意しました。
- 3 2021（令和3）年度より、若手研究者（博士課程学生）育成支援制度を開始することを決定しました。優秀な博士課程在学生の研究者としてのキャリア支援を目的として、「特別専任助手」として雇用して安定的な生活を保障し、一定の授業責任時間の設定並びに一定額の研究費を配分することで、履歴書に記載できる教育歴及び研究歴を積ませるものです。

工学研究科

- 1 電子システム工学専攻並びに先端機械工学専攻の2021（令和3年度）の設置に向けた準備を進めました。
- 2 大学院進学推進WGのもと、学部生に向けて大学院生によるポスター発表や、個別相談等を実施し、大学院進学の上を図りました。（未来科学研究科共通）
- 3 先端科学技術研究科、工学研究科、未来科学研究科の研究発表会を2020（令和2）年2月15日に合同開催しました。発表会は、学部生、学外者及び卒業生にも公開され、学部生を含め、計504名が参加しました。

未来科学研究科

- 1 建築学専攻の「TDU建築設計事務所」における実務教育や情報メディア学専攻の「国際化サイバーセキュリティ学特別コース（CySec）」など特色ある教育を実施しました。
- 2 ロボット・メカトロニクス学専攻における令和3年度の入学定員変更の準備を進めました。
- 3 継続して実施している、「技術英語」「企業研究能力と自己PR力」などのエクステンションプログラムを実施しました。

理工学研究科

- 1 理工学研究科修士課程への内部進学率向上のため、理工学部全学生を対象とした進学ガイダンス、キャリア就職ガイダンス及び専攻別ガイダンスを通じて本研究科の紹介を積極的に実施しました。
- 2 理工学研究科学内推薦入試（A日程）に合格した学部4年次の19名を本学協定校の中原大学（台湾）へ7月の約3週間派遣し、海外研修を実施しました。また、事前準備として理工学研究科共通科目「科学英語」の先取り履修や「国際化プロジェクト」を開講し、海外研修後の単位認定を行いました。
- 3 埼玉県内にキャンパスを設置する21大学と埼玉県が協力して、授業科目の一部を県内在住の55歳以上の方を対象としたリカレント教育として実施するとともに、理工学研究科の授業科目の一部を「公開科目」として一般に開放しました。

情報環境学研究科

- 1 修士論文・研究成果報告の公聴会・審査会を継続実施しました。
- 2 研究指導体制充実のため、副査による研究指導面談と面談報告書の提出及び専攻内での公開を継続実施しました。また、主査による研究指導計画書の提出及び専攻内での公開を継続実施しました。
- 3 学生の研究意欲向上のため、本研究科主催の「アイデアコンテスト」を継続実施しました。学部・大学院の連携強化の一環として、2019年度も学部生にも参加を呼びかけ、3年生を含む多くの学部生が参加しました。また、学術貢献賞の授与などを継続して実施しました。

大学院専攻一覧

先端科学技術研究科	博士課程（後期）：数理学専攻 電気電子システム工学専攻 情報通信メディア工学専攻 機械システム工学専攻 建築・建設環境工学専攻 物質生命理工学専攻 先端技術創成専攻 情報学専攻
工学研究科	修士課程：電気電子工学専攻／電気電子システムコース 電気電子工学専攻／電子光情報コース 物質工学専攻 機械工学専攻／機械工学コース 機械工学専攻／先端機械コース 情報通信工学専攻
未来科学研究科	修士課程：建築学専攻 情報メディア学専攻 ロボット・メカトロニクス学専攻
理工学研究科	修士課程：理学専攻 生命理工学専攻 情報学専攻 電子・機械工学専攻 建築・都市環境学専攻
情報環境学研究科	修士課程：情報環境学専攻

◆ 各学部の取り組み

工学部

- 1 第3期認証評価を踏まえた自己点検評価を教育プログラム単位(学科単位)で実施しました(全研究科、学部共通)。
- 2 全学的な初年次教育科目を配当することについて、教育改善推進室と協力して準備しました(全学部共通)。
- 3 工学部が主体となり、昨年度に引き続き、特徴的な入試広報の一つとして、全学生を対象とした動画コンテストを開催しました。

工学部第二部

- 1 2018(平成30)年度より開設した「社会人課程(実践知重点課程)」「実践知プログラム(履修証明プログラム)」につき、自己点検評価/外部評価を実施しました。また、この特色ある教育の広報強化のためPR動画を作成するとともに、企業訪問を実施しました。
- 2 積極的な募集活動、多様な入試制度により、計画通りの学生を迎えることができました。

未来科学部

- 1 文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」並びに「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」において、昨年度に引き続き特色ある教育を実施しました。
- 2 IDCロボットコンテスト(於 マサチューセッツ工科大学)を昨年度に引き続き、ロボット・メカトロニクス学科教員が中心となり、推進しました。
- 3 「プロの能力、豊かな教養」を育む教育の一環で、海外で活躍する著名な専門家を招き、各分野の最新技術や研究動向を紹介しています。2019(令和元)年度は、建築学科で開催しました。

システムデザイン工学部

- 1 学部を開設して3年が経過し、教育・研究・学生指導ともに、充実を図ってきました。
- 2 積極的な募集活動により、入学試験も当初目標のとおり学生を迎えることができました。
- 3 完成年度を迎えるにあたり、卒業研究の研究室配属に向けた準備を進めました。

理工学部

- 1 理工学部の教育的特色である「主・副コース制度」を補充し、専門性に深化した新たな横型縦型連携システムとして大学院教育とも連携する「オナーズプログラム」(次世代技術者育成プログラム)のリーフレットを作成し学内外へ周知しました。また、全学的な方針を踏まえてカリキュラムマップを作成し2020(令和2)年4月の授業開講に向けて準備しました。
- 2 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(通称TJUP)に参画し、他大学、自治体、企業等と連携し、地域活性化の推進を図りました。
- 3 学生によるデザインコンペを行い、第2食堂「樹海」の改修工事を行いました。併せて学生アンケートの実施結果を踏まえ、第2食堂の呼称を「Komorebi」に変更しました。

情報環境学部

- 1 2018(平成30)年4月の東京千住キャンパス移転後も、学部独自の50分授業を継続し、50分授業を週複数回、開講しました。
- 2 卒業要件単位の早期修得を促進する観点から、基礎科目の集中講義を複数実施し、よりきめ細かい対応を行いました。
- 3 2017(平成29)年度開設のシステムデザイン工学部の教員が情報環境学部を兼務することに伴う2020(令和2)年度の情報環境学部の教育システムの調整を行いました。



◆ 教育研究機関との連携

■ 他大学との連携

本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学で構成する東京理工系4大学では、各大学で開講する学部及び大学院修士課程の授業を履修できる「単位互換制度」、いずれの大学院にも特別推薦により進学できる特別推薦入試制度などの連携を行っています。

他にも、首都大学院コンソーシアム、彩の国大学コンソーシアム、日本医科大学との連携、山形大学工学部、日本工業大学、公立はこだて未来大学、東京医科歯科大学等との学術連携協力のほか、足立区6大学(本学、放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、文教大学)で連携し、定期的に学長会議を実施しています。さらに、主に埼玉県東上地域に所在する18大学・短期大学、関連する自治体、企業等が連携する「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)」を2018(平成30)年8月に発足し、本学が代表校を務め、連携を推進しています。

また本学は、文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の第2期(学部生向け)セキュリティ分野において、東北大学をはじめとする14の大学のうちの1大学として採択されています。14大学が連携して「Basic SecCap」というコースを共同運営し、情報セキュリティ分野における実践的人材を育成しています。

■ 研究機関との連携(連携大学院方式)

学外の研究機関と連携して、大学院生の研究指導を行う「連携大学院方式」を導入し、研究領域の多様化と研究内容の拡大を図り、大学院教育の活性化を目指しています。最新の設備と機器を備えた研究機関において、また客員教授として迎えた連携先研究者のもとで、研究指導を受けることができます。連携先及び客員教員は今後も拡大を図る予定です。

《連携研究機関》

国立研究開発法人 理化学研究所/国立研究開発法人 産業技術総合研究所/一般財団法人 電力中央研究所/国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構/国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所/国立研究開発法人 物質・材料研究機構/国立研究開発法人 情報通信研究機構/NHK放送技術研究所/独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所/日本電信電話株式会社(NTT物性科学基礎研究所)

■ 海外協定校及び交流のある海外大学(17の国と地域から37大学・1研究機関)

イギリス	ケンブリッジ大学ホマーソンカレッジ
アメリカ	コースタルカロライナ大学、コロラド大学ボルダー校、パデュー大学、マーシャル大学、フェアモント州立大学、アーカンソーテック大学、ハワイ大学ヒロ校、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校
カナダ	ビクトリア大学
オーストラリア	シドニー大学、クイーンズランド工科大学
韓国	大邱大学校、ソウル科学技術大学校、全北大学校
中国	大連理工科大学、同済大学、北京科技大学、新疆大学、深圳技術大学
台湾	中原大学、元培医事科技大学
ドイツ	イルメナウ工科大学
フランス	フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSMM)
フィンランド	ラップランド応用科学大学
エストニア	タリン工科大学
インド	チャンディーガル大学、インド理科大学
ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、FPT大学
インドネシア	ヌサンタラ・マルチメディア大学
マレーシア	マラ工科大学、マレーシア工科大学
タイ	泰日工業大学、シンクロトロン光研究所、モンクット王工科大学トンブリー校、マハサラカム大学
ブルネイ・ダムサラーム	ブルネイ工科大学



◆ 教育の取り組みの成果

学生の受賞・表彰

学会やコンクールでの発表などで、大学院生や学部生が様々な受賞や表彰を受けています。

博士 個人

柏 昂希(先端研 博士3年)
2019 JSAE/SAE Powertrains, Fuels and Lubricants International Meeting「Best Paper Award」
ダン ホウ(先端研 博士3年)
The 22nd International Symposium on Advances in Abrasive Technology (ISAAT2019)「Excellent Paper Award」
宮内 弘太(先端研 博士2年)
土木学会 第59回土木計画学研究会発表会「優秀ポスター賞」
EASTS CONFERENCE 2019「Outstanding Poster Presentation Award」
戸塚 穂高(先端研 博士1年)
ICMEA 2019「Best Poster Award」
森田 慎一郎(先端研 博士1年)
International Workshop on Advanced Image Technology 2020(IWAIT 2020)「Best Paper Award」

修士 個人

金子 真也(工研 修士2年)
2019年度精密工学会秋季大会学術講演会「ベストプレゼンテーション賞」
立石 良生(工研 修士2年)
20th IEEE/ACIS International Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking and Parallel/Distributed Computing (SNPD 2019)「Best Paper Award」
第18回情報科学技術フォーラム「FIT奨励賞」
古屋 邦祥(工研 修士2年)
日本材料学会 第5回材料WEEK 材料シンポジウム 若手学生研究発表会「優秀講演賞 ベストプレゼンテーション賞」
高瀬 正峻(工研 修士2年)
日本材料学会 第5回材料WEEK 材料シンポジウム 若手学生研究発表会「優秀講演賞 ベストプレゼンテーション賞」
中島 大地(工研 修士2年)
日本材料学会 第5回材料WEEK 材料シンポジウム 若手学生研究発表会「優秀講演賞 ベストディスカッション賞」
三井 駿(工研 修士2年)
電気学会 2019年電子・情報・システム部門大会「優秀ポスター賞」
市之瀬 智生(工研 修士2年)
プラズマ分光分析研究会 筑波セミナー2019「ショートプレゼンテーション賞」
レーチュン ハウ(工研 修士1年)
自動車技術会 2019年度「学生自動車研究会功労賞」
横田 航也(工研 修士1年)
計測自動制御学会 流体計測制御シンポジウム「ベストプレゼンテーション賞」
小林 晴貴(工研 修士1年)
脆弱性を発見「CVE-2019-6004, JVN#07679150」
海野 佳月(工研 修士1年)
第20回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2019)「優秀講演賞」
齋藤 一拓(工研 修士1年)
第33回ダイヤモンドシンポジウム「優秀ポスター賞」
並木 敬太郎(工研 修士1年)
電気学会 2019年電子・情報・システム部門大会「優秀ポスター賞」
坪井 栄樹(工研 修士1年)
電気学会 2019年電子・情報・システム部門大会「優秀ポスター賞」
Bastien Poitrimol(工研 修士1年)
RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing 2020(NCSP'20)「Student Paper Award」
橋本 快生(工研 修士1年)
第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM 2020)「オンラインプレゼンテーション賞」
柏舘 敬(理工研 修士2年)
Cognitive Science Society Meeting 2019「Student Travel Award」
野村 勇斗(理工研 修士2年)
第16回地盤工学会 関東支部発表会 GeoKanto2019「優秀発表者賞」

浅見 直生(理工研 修士2年)
電気学会東京支部埼玉支所 第23回研究発表会「優秀論文発表賞」
内田 夏綺(理工研 修士2年)
ライフサポート学会「フロンティア講演会 論文賞」
上條 弘幹(理工研 修士2年)
ライフサポート学会「フロンティア講演会 論文賞」
清水 純平(理工研 修士1年)
第42回日本バイオレオロジー学会年会「優秀ポスター賞」
第67回レオロジー討論会「優秀ポスター発表賞」
日本食品科学工学会第66回大会 第15回若手の会研究発表「若手の会企業賞」
鈴木 慧(理工研 修士1年)
第30回応用物理学会秋季学術講演会「放射線分科会 学生ポスター賞」
荒居 誠一(理工研 修士1年)
第57回日本人工臓器学会大会 萌芽研究ポスターセッション「最優秀賞」
佐鳥 玖仁朗(理工研 修士1年)
情報処理学会第82回全国大会「学生奨励賞」
吉沢 栄貴(理工研 修士1年)
情報処理学会第82回全国大会「学生奨励賞」
河村 天暉(未研 修士2年)
第18回情報科学技術フォーラム「FIT奨励賞」
情報処理学会第82回全国大会「学生奨励賞」
佐々木 進太郎(未研 修士2年)
CCEAI 2020「Excellent Presentation Award」
三浦 偉志(未研 修士2年)
SSI 2019「SSI Excellent Presentation Award」
青井 雄亮(未研 修士2年)
情報処理学会 モバイルコンピューティングとバーベイスシステム研究会 第93回研究会「奨励賞」
黒川 翔瑠(未研 修士1年)
2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics(GCCE 2019)「Excellent Student Paper Award(Bronze Prize)」
福土 龍一(未研 修士1年)
第18回情報科学技術フォーラム「FIT奨励賞」
奥田 顕浩(未研 修士1年)
第3回東京公共交通オープンデータチャレンジ「審査員特別賞」
映像情報メディア学会「2019年度学生優秀発表賞」
桑村 駿太(未研 修士1年)
(一社)埼玉建築設計監理協会 理工系学生奨励事業 第19回卒業設計コンクール「準埼玉賞」
齋藤 美優(未研 修士1年)
人間・環境学会(MERA)第26回大会「発表賞」
野城 圭佑(未研 修士1年)
ヨコハマヒューマン&テクノランド2019「ヨックテデザイン大賞」
花房 美咲(未研 修士1年)
第20回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2019)「優秀講演賞」
小安 宗徳(情環研 修士2年)
HCGシンポジウム2019「学生優秀インタラクティブ発表賞」
渡邊 優(情環研 修士1年)
情報処理学会 第24回デジタルコンテンツクリエイション研究会(DCC)「DCC優秀賞」

学部 個人

石川 哲也(工 4年)
日本化学会 第9回 CSJ 化学フェスタ 2019「優秀ポスター発表賞」
栗山 晃一(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5960, JVN#33652328」
阿部 豪太(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5993, JVN#92510087」
岡澤 佳寛(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5974, JVN#80925867」

菊池 裕太(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5992, JVN#48981892」
山口 拓哉(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-6027, JVN#26838191」
山崎 旭(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5979, JVN#88804335」
松岡 夏美(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5972, CVE-2019-5973, JVN#96988995」
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5970, CVE-2019-5971, JVN#95685939」
清水 大介(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5983, JVN#49575131」
石川 正一郎(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5980, JVN#31406910」
池田 康平(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5962, CVE-2019-5963, JVN#88962935」
中原 黎(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2020-5530, JVN#89259622」
中村 大(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-5984, JVN#29933378」
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-6004, JVN#07679150」
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2020-5523, JVN#28845872」
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2020-5526, JVN#00014057」

徳生 神之介(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-6032, JVN#01236065」
白井 優武(工 4年)
脆弱性を発見「脆弱性番号:CVE-2019-6029, CVE-2019-6030, JVN#26847507」
張替 裕太(工 4年)
電気学会 2019年電子・情報・システム部門「技術委員会奨励賞」
石黒 智之(工 4年)
電気学会東京支部主催 第10回学生研究発表会「優秀発表賞」
井上 裕之(理工 4年)
電気学会東京支部主催 第10回学生研究発表会「優秀発表賞」
古郡 葉子(理工 4年)
電気学会東京支部主催 第10回学生研究発表会「優秀発表賞」
柏戸 昌也(理工 4年)
電気学会東京支部埼玉支所 第23回研究発表会「優秀論文発表賞」
池田 駿介(理工 4年)
情報処理学会第82回全国大会「学生奨励賞受賞」
小林 千紜(理工 3年)
第3回日本建築学会グローバル化人材育成プログラム 世界で建築をつくるぞ!—グローバルな建築デザイン・マネジメント・エンジニアリング分野への入門「プレゼンテーション 青木謙一 賞/プレゼンテーション 山下真澄 賞」
野口 和宏(未来 4年)
第3回東京公共交通オープンデータチャレンジ「INIAD特別賞」
西尾 祥希(未来 4年)
第15回日本感性工学会春季大会「優秀発表賞」
高須 恵(未来 4年)
情報処理学会第82回全国大会「学生奨励賞」/「大会奨励賞」
三浦 京之介(シス工 3年)
学生照明展実行委員会主催 学生照明展2020「審査委員奨励賞 富田泰行賞」

※所属・学年は受賞当時。
※先端研=先端科学技術研究科、工研=工学研究科、理工工=理工学研究科、情環研=情報環境学研究科、未研=未来科学研究科、工=工学部、理工=理工学部、情環=情報環境学部、未来=未来科学部、シスエ=システムデザイン工学部、工二=工学部第二部(夜間)

(敬称略)

グループ

川原田 健人(未来 4年)、**臼井 秀太郎**、**原田 岬幸**(未来 3年)
第3回未来こども園デザインコンペティション「最優秀賞」
柳澤 宏伎(情環研 1年)、**宮城 裕佳**、**村瀬 広太郎**(情環 4年)
京セラコミュニケーションシステム Sigfoxで生活を楽しくするIoTアイデアコンテスト プロトタイプ部門「最優秀賞」
釜谷 尚宏、**柴田 祐希**、**杉山 貴彦**、**平出 新**、**大和 健**(シス工 3年)
日経BP主催みんなのラズパイコンテスト2019「優良賞」
電子計測研究室
第27回衛星設計コンテスト「電子情報通信学会賞」

卒業生・研究生 他

田中 剛(2019 先端研修了)、**皆川 佳祐**(2007 先端研修了)
2019年度「日本機械学会賞(論文)」
深沢 剛司(2008 先端研修了)、**岡村 茂樹**(2003 工研博士課程修了)
2019年度「日本機械学会賞(論文)」
岩崎 雄己(2018 理工研修了)、**須田 真之助**(2019 理工研修了)
2018年度ライフサポート学会「論文賞」
野中 直樹、**高橋 洗人**(2018 未研修了)
足立区創業プランコンテスト「優秀賞/瀧野川信用金庫賞/東京東信用金庫賞」
荒尾 彩子(2019 未研修了)
電子情報通信学会 知的環境とセンサネットワーク研究会「若手研究奨励賞」
小田 彰恭(2010 理工卒)
第40回日本炎症・再生医学会「優秀演題賞(血管内皮)」
松岡 裕和(2005 理工卒)
デジタルフォレンジック研究会 優秀若手研究者表彰「最優秀賞」

◆ 研究の取り組みの成果

教員等の受賞・表彰 (2019年度受賞、所属・職位は受賞時) 現教員以外の受賞・受賞・表彰も合わせて報告します。

叙勲等受賞

中村 尚五 名誉教授 瑞宝小綬章(春)

学長、教員等

射場本 忠彦 学長

- ・空気調和・衛生工学会「第57回 学会賞論文賞」
- ・東京都功労者表彰(技術振興功労)

安田 進 名誉教授(総合研究所客員教授)

- ・第56回九州工業大学嘉村記念賞
- ・令和元年 安全功労者内閣総理大臣表彰

吉田 俊哉 教授、佐藤 慶介 教授(工学部電気電子工学科)

保倉 明子 教授(工学部応用化学科)、田中 里美 講師(工学部自然科学系列)

井上 淳 助教(未来科学部ロボット・メカトロニクス学科)

- ・平成30年度関東工学会教育協会賞「業績賞」

西川 正 教授(工学部電子システム工学科)、石澤 淳 客員教授(連携大学院)

- ・レーザー学会「業績賞(論文賞)【解説部門】」

藤田 聡 教授(工学部機械工学科)

- ・日本機械学会 機械力学・計測制御部門「学術業績賞」
- ・2019年度日本機械学会賞(論文)

森田 晋也 教授(工学部先端機械工学科)

- ・2019年度精密工学会春季大会学術講演会「ベストオーガナイザー賞(講演件数 進歩部門)」

本橋 光也 教授(工学部情報通信工学科)

- ・日本材料科学会「功績賞(中村賞)」

山口 正二 教授(理工学部情報システムデザイン学系)

- ・日本カウンセリング学会「学会賞」

古屋 治 教授(理工学部機械工学科)

- ・ASME Pressure Vessels and Piping Conference「学会貢献賞」

大西 謙吾 教授(理工学部電子工学科)

- ・日本義肢装具学会「飯田賞奨励賞」
- ・公益社団法人日本生体医工学会主催 生体医工学シンポジウム「ベストレビューワーアワード」
- ・2018年度ライフサポート学会「論文賞」

文部科学省、日本学術振興会 科学研究費補助金の採択状況(件)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
新学術領域	0	0	1	2	2
基盤研究A	0	0	0	0	0
基盤研究B	5	6	8	6	6
基盤研究C・基盤研究C特設	65	68	66	67	78
挑戦的研究(開拓・萌芽)	9	11	10	6	1
若手研究A	1	1	1	1	2
若手研究B・若手研究	18	18	24	18	17
特別研究員奨励費	3	2	0	0	0
学術図書	0	0	0	0	1
研究活動スタート支援	4	2	0	0	1
奨励研究	0	0	0	1	1
計	105	108	110	101	109

上記以外の公的補助金・助成金の採択状況	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
特定領域研究等(件)	12	11	7	2	2

受託研究の受け入れ状況 (継続を含む入金額)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
件数(件)	56	59	74	72	60
受入額(円)	187,278,959	283,492,930	260,554,650	286,672,965	153,095,679

共同研究の状況 (継続を含む)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
件数(件)	88	102	110	111	112
受入額(円)	87,477,342	80,857,979	102,798,911	84,791,094	98,177,647

特許申請(保有件数)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
出願件数(件)	20	29	30	20	28
特許取得件数(件)	10	16	10	12	16

研究奨励寄付金の受け入れ状況 (継続を含む)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
件数(件)	83	73	83	89	109
受入契約額(円)	127,844,280	111,185,716	82,113,932	88,971,377	99,117,409

百田 真史 教授(未来科学部建築学科)

- ・空気調和・衛生工学会「第57回 学会賞論文賞」

宮保 憲治 教授(システムデザイン工学部情報システム工学科)

- ・平成30年度 電子情報通信学会「教育優秀賞」
- ・2019年電気通信大学同窓会賞

阿倍 博信 教授(システムデザイン工学部情報システム工学科)

- ・情報処理学会 第24回デジタルコンテンツクリエーション研究会(DCC)「DCC 優秀賞」

小林 亘 教授(研究推進社会連携センター)

- ・土木学会インフラデータチャレンジ「データ部門優秀賞」
- ・第29回中央非常通信協議会表彰

帯川 利之 特別専任教授(ものづくりセンター)

- ・第15回 精密工学会賞

桑名 健太 准教授(工学部先端機械工学科)

- ・一般社団法人日本コンピュータ外科学会 2018年度 CAS Young Investigator Award(日立賞)「ゴールド賞」

矢口 博之 准教授(理工学部情報システムデザイン学系)

- ・日本画像学会「ロニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞」

能作 文徳 准教授(未来科学部建築学科)

- ・住まいの環境デザインアワード2020「優秀賞」

佐々木 良一 特命教授(総合研究所)

- ・情報処理学会 DICOMO2019「シニアリサーチ賞」

筒井 裕文 助教(理工学部 建築・都市環境学系)

- ・CESE-2019「BEST YOUNG SCIENTIST ORAL PRESENTATION AWARD」

廣田 悠輔 助教(未来科学部情報メディア学科)

- ・日本応用数理学会「2018年度若手優秀講演賞」

井上 淳 助教(未来科学部ロボット・メカトロニクス学科)

- ・電気学会「第22回優秀技術活動賞 技術報告賞」

東京電機大学(国際センター)

- ・2019年 日本留学 AWARDS 私立大学理工系部門入賞校

東京電機大学(入試センター)

- ・第34回 全日本DM大賞「銀賞」

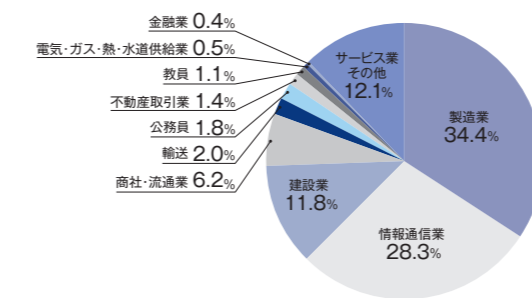
◆ 就職実績

● 就職内定率

98.4%

2020年3月卒業生、修了生の就職内定実績。民間企業への就職希望者1,653名に対して、1,626名が内定を獲得しました。

● 産業別就職割合



● 過去5年間の主な内定企業実績一覧 (2016年3月~2020年3月卒業生、終了生実績)

三菱電機	70	富士電機	32
東日本旅客鉄道(JR東日本)	59	大成建設	29
凸版印刷	37	NECフィールディング	29
日本電気(NEC)	36	バイオニア	29
大和ハウス工業	32	富士通	28
スズキ	28	SUBARU	22
沖電気工業	26	アズビル	22
東京電力ホールディングス	26	日立製作所	21
本田技研工業	25	日立オートモティブシステムズ	20
関電工	23	ミネベアミツミ	20
東海旅客鉄道(JR東海)	23	アルプスアルパイン	19
		大日本印刷	18
		NECソリューションイノベータ	18
		トヨタ自動車	17
		積水ハウス	14
		NTTデータ	14
		ヤフー	14

● 主要内定実績企業一覧 (2020年3月卒業生、終了生実績)

東日本旅客鉄道(JR東日本)	15	スズキ	10
三菱電機	11	富士電機	9
凸版印刷	10	沖電気工業	9
大和ハウス工業	10	日本電気(NEC)	8
SUBARU	10	本田技研工業	8
東京電力ホールディングス	7	ミネベアミツミ	6
東海旅客鉄道(JR東海)	7	アズビル	6
大日本印刷	7	日本電産	5
富士通	7	三井情報	5
ソフトバンク	7	日立製作所	5
大成建設	6	積水ハウス	5
		NECソリューションイノベータ	5
		NECフィールディング	5
		京セラ	4
		日野自動車	4
		日産自動車	4
		ヤフー	4

● 電機会 (2020年3月現在)

卒業生が企業等でつづけている支援組織

1 教職校友会	1,207	6 沖電気電機会	166
2 東京電機大学技術士会	383	7 関電工電機会	165
3 三菱電機会	279	8 東管支部	151
4 民間放送校友会	255	9 鹿島建設電機会	123
5 錦央電機会	177	10 大成建設電機会	111

● 求人社数

15,208社

本学の学生一人あたりの求人数は約9社。(全国平均は1.83社:リクルートワークス研究所調べ)

● 希望企業への内定獲得率

93.5%

2020年3月卒業生アンケートで就職内定先企業が、希望順位の第3位までの割合。第1位と回答した学生も63%にのほります。

● 就職先企業の満足度

97.7%

2020年3月卒業生アンケートで就職内定先企業を「大変満足」「満足」と答えた学生の割合。

● 学内企業説明会参加企業数 (2019年3月~2020年3月に開催)

486社

就職活動の時期に電大生のために

会社説明会に参加する企業数。

● 卒業生による仕事研究セミナー参加企業数[キャリア教育行事]

253社

卒業生が活躍する企業253社が1日に集まり、

卒業生が親身になって相談ののってくれます。

● キャリア支援・就職支援講座 (2019年度)

154回

学部1年生から参加できる講座など、

2キャンパスで毎週1つ以上の講座を開講しています。

アマダホールディングス、アマノ、アルファシステムズ、いすゞ自動車、インターネットイニシアティブ、SMC、SCSK、NECプラットフォームズ、NSD、NTN、NTTテクノクロス、荏原製作所、大林組、オカムラ、オリエンタルモーター、オリンパス、鹿島建設、キッツ、キヤノン、キヤノンITソリューションズ、キヤノンメディカルシステムズ、京セラ、協和エクシオ、クレスコ、グローリー、KDDI、ケーヒン、小糸製作所、五洋建設、サンケン電気、システナ、シャープ、ジャスコ、ジョンソンコントロールズ、スタンレー電気、住友林業、セイコーエプソン、ソディック、ソフトバンク、TDK、TDCソフト、THK、DTS、デンソー、東急建設、東急コミュニティー、東京エレクトロン、東京地下鉄(東京メトロ)、東光高岳、東芝、西松建設、日産自動車、日鉄テックスエンジン、日本ケミコン、日本コムシス、日本システムウエア(NSW)、日本精機、日本精工、日本無線、東日本電信電話(NTT東日本)、日立建機、日立ビルシステム、日野自動車、富士通ゼネラル、ボラス、前田建設工業、マクニカ、三菱ケミカル、明電舎、ヤマハ発動機、ヤンマー、ラック、ローム

アイシン精機、旭化成ホームズ、アドバンテスト、アルプスアルパイン、いすゞ自動車、一条工務店、出光興産、伊藤忠テクノソリューションズ、インターネットイニシアティブ、AGC、SMC、SCSK、NECプラットフォームズ、NSD、NTTデータ、NTTテクノクロス、NTTファシリティアーズ、荏原製作所、大林組、オカムラ、オリンパス、カシオ計算機、鹿島建設、亀田製菓、キヤノン、キヤノンITソリューションズ、キヤノンメディカルシステムズ、京三製作所、KDDI、ケーヒン、コニカミノルタ、小松製作所、山九、サンケン電気、JVCケンウッド、敷島製パン、芝浦機械、清水建設、シャープ、ジャスコ、ショーフ、住友重機械工業、住友電設 東京本社、住友林業、セイコーエプソン、ソディック、ダイキン工業、チームラボ、TDK、TDCソフト、DTS、東急、東急建設、東京エレクトロン、東芝、ドコモCS、ニコン、日鉄テックスエンジン、日本コムシス、日本信号、日本発条(ニッパツ)、日本NCR、東日本電信電話(NTT東日本)、日立オートモティブシステムズ、日立建機、日立システムズ、日立ビルシステム、フクダ電子、三井住友海上火災保険、三菱ケミカル、三菱マテリアル、ミライト、村田製作所、明電舎、矢崎グループ、山崎製パン、ヤマハ、ヤンマー、横河電機、横浜ゴム、ラック、リコー、レンゴー 東京本社、ローム、ローランド、ロッテ

11 明電舎電機会	99	16 商工懇話会	48
12 京三電機会	78	17 特許電機会	46
13 東光電気工事電機会	64	18 日本電波工業電機会	44
14 竹中電機会	57	19 アズビル電機会	40
15 長谷工電機会	57	20 東管神奈川電機会	35

※他に多くの電機会があります。

◆ 卒業生の活躍

■ 卒業生が現役トップの上場企業（社長・会長クラス）

上場企業の代表権のあるトップは10名(全国41位)、役員は64名(全国52位)。

会社名	資本金	従業員(人)	事業内容
アンリツ㈱	191億円	3,778	通信用計測器の大手企業。携帯電話や基地局に強い。異物検出機なども展開。海外でも高シェア。
亀田製菓㈱	19億円	3,197	菓子の製造販売。国内米菓市場の約30%を占める。米国、中国など世界に米菓を広げている。
㈱関電工	102億円	9,651	電気・通信・空調・プラントなど電力の安定供給を守る、幅広い分野の設備工事を展開する総合設備企業。
㈱コーエーテクモホールディングス	150億円	1,835	ゲームソフト中堅のコーエーとテクモが09年経営統合、様々なゲーム等を提供。オンラインゲームを含め海外展開強化へ
㈱駒井ハルテック	66億円	560	鉄骨・橋梁の大手。東京スカイツリーや東京湾アクアライン、超高層ビルなどに実績。
㈱システム情報	5.02億円	627	独立系。高取得率の国際PMPとCMMILレベル5をベースのプロジェクト管理力に強み。
システムズ・デザイン㈱	3.33億円	490	SIとデータ入力、会計ソフトのプレス発注が柱。独立系会計ソフトのPCA創業者が筆頭株主。
シンデン・ハイテックス㈱	14億円	132	液晶や半導体などの電子部品販売を主軸とする専門商社。サプライチェーン・マネジメントが強み。
スタンレー電気㈱	305億円	17,121	自動車機器、コンポーネンツ(LED、LCD等)、電子応用製品の各事業を展開。
㈱大気社	64億円	4,829	空調工事業界大手。自動車塗装設備工事で国内首位、世界で2位。東南アジアなど海外展開も。
テクノホライゾン・ホールディングス㈱	25億円	896	タイテックと買収したエルモ社の共同持株会社。電子・光学機器の2本社、書画カメラが看板。
㈱ドウシヤ	49億円	1,631	ブランド品等を量販店中心に卸売り、PB商品開発も積極推進、小売り支援等サービスも。
㈱トプコン	166億円	4,923	測量やGPS関連が軸。眼底カメラなど眼科用機器は世界有数。
富士ソフト㈱	262億円	14,775	独立系大手ソフト開発。家電や自動車向けの組み込み系ソフトに強み。
不二ラテックス㈱	6.43億円	297	ゴム製品及び産業機械向け緩衝器等の製造・販売。
㈱マイスターエンジニアリング	9.81億円	1,875	半導体製造装置などメカトロメントからビル等の施設メンテと管理に軸足。環境分野を開拓。

■ 卒業生が役員を務めている上場企業

㈱アイ・オー・データ機器/㈱IDホールディングス/旭有機材㈱/㈱アドバネクス/㈱アドバンテスト/アンリツ㈱/㈱インフォネット/㈱内田洋行/㈱オーネックス/亀田製菓㈱/㈱関電工/栗田工業㈱/㈱コーエーテクモホールディングス/㈱駒井ハルテック/三協フロンテア㈱/㈱GA technologies/㈱システム情報/システムズ・デザイン㈱/新光商事㈱/シンデン・ハイテックス㈱/スタンレー電気㈱/住友電設㈱/㈱大気社/㈱高見沢サイバネティックス/㈱タチエス/㈱チノ/㈱DTS/帝国通信工業㈱/テクノホライゾン・ホールディングス㈱/電気興業㈱/㈱ドウシヤ/東洋電機㈱/㈱トプコン/富士ソフト㈱/ナガイレーベン㈱/日本金属㈱/日本精機㈱/能美防災㈱/㈱ハーモニックドライブ・システムズ/ピー・シー・イー㈱/㈱福島銀行/不二ラテックス㈱/古林紙工㈱/㈱フロンコピリー/豊和工業㈱/ホーチキ㈱/㈱マースグルルディングス/㈱マイスターエンジニアリング/マブチモーター㈱/ミサワホーム㈱/ミサワホーム中国㈱/三井金属エンジニアリング㈱/油研工業㈱/㈱理経/リズム時計工業㈱/リョービ㈱/㈱レントラックス/ワイエイシイホールディングス㈱

出典:『東洋経済別冊 役員四季報2020年度版』

■ 卒業生の叙勲等受章者（2019(令和元)年）

「瑞宝小綬章(春)」 橋本 三男 殿 元 東京都立高等学校長	「瑞宝中綬章(秋)」 田島 泰幸 殿 元 労働省産業安全研究所長
「瑞宝単光章(春)」 小田 晃 殿 元 東京都麹町消防団副団長	「瑞宝小綬章(秋)」 早坂 光生 殿 元 大阪国際空港長(大阪空港事務所長)
「瑞宝単光章(春)」 岡田 和久 殿 元 葛飾区清掃作業員	「瑞宝双光章(秋)」 森 正一 殿 元 公立小学校長
	「瑞宝双光章(秋)」 日置 保夫 殿 元 東京地方検察庁総務部検務監理官
	「瑞宝双光章(秋)」 杉山 学 殿 元 海上自衛隊第203教育航空隊飛行教育班長

■ 著名な卒業生など 敬称略。ほかに多くの著名な卒業生がいます。

横 河 一 郎	横河電機㈱の創業者のひとり。大正時代に欧米を視察し、電気計測器の国産化に成功。同社製の実演装置等を保管。同社は工業計器首位。制御機器と計測機器が2本社。
内 田 鐵 衛	㈱コロナの創業者。日本初の軽油を燃料とした「加圧式液体燃料コンロ」の開発に成功し実用化。同社は石油暖房機器、空調、温水機器が主力。
高 橋 勲 次 郎	日本電子㈱創業者で電子顕微鏡の実用化に成功。同社は世界最高の分解能を誇る電子顕微鏡で、世界シェアが高い。
福 田 孝	フクダ電子㈱の創業者。国産心電計の開発に成功。同社は医用電子機器メーカーとして循環器系に強く、心電計でトップ。千葉ニュータウンキャンパス福田記念国際交流センターを寄贈。
梶 尾 俊 雄	カシオ計算機㈱創業の梶尾4兄弟のひとり。世界初の小型純電気式計算機「14-A」、電卓、時計、電子楽器など発明品は多数。同社は電波時計、電子辞書で高シェア。東京千住キャンパスに同氏を顕彰したカシオホールがある。(※本学名誉博士)
手 島 透	当時、世界最高輝度の液相式高輝度赤色LEDを開発・実用化し、LED産業発展の基礎を築く。スタンレー電気㈱技術研究所長、代表取締役を歴任。紫綬褒章受章。(※本学名誉博士)
ズ ハ ー ル	インドネシア共和国国家イノベーション委員会会長、アルアズハレインドネシア大学学長を経て、インドネシア政府要職を歴任。旭日重光章受章。(※本学名誉博士)
新 田 次 郎	直木賞作家、気象学者。気象庁に勤務しながら本学を卒業。「強力伝」で直木賞。自らの体験に根ざした「富士山頂」や「聖職の碑」などの山岳小説で有名。紫綬褒章受章。
熊 谷 達 也	直木賞作家。東北や北海道の民俗、文化、風土に根ざした小説「遼逝の森」で、山本周五郎賞と直木賞をダブル受賞。「漂泊の牙」で新田次郎文学賞。
円 谷 英 二	特殊映画監督。元円谷プロダクション社長。ウルトラマンやゴジラなど、昭和の特殊撮影技術の第一人者で、特撮の神様と称される。(電機学校在籍)
飯 島 勲	元小泉内閣総理大臣首席秘書官。21世紀政策研究所(経団連)顧問、安倍内閣 内閣参事。
田 村 信 一	元日本テレビ放送網㈱取締役専務執行役員。テレビ放送デジタル化を推進。第62回前島密賞。
鯉 沼 久 史	コーエーテクモゲームス取締役社長。プログラマーを経て、「戦国無双」シリーズや「進撃の巨人」などコラボレーション作品を多数担当。

◆ 社会に貢献する東京電機大学

● 丹羽保次郎記念論文賞

初代学長で日本の十大発明家に数えられる故丹羽保次郎博士の電気通信技術に対する功績を記念し、大学院生等を対象に1977(昭和52)年に設立されました。2019(令和元)年度は12件の推薦応募があり、審査の結果、次の2名の方が受賞されました。(所属等は受賞時)

毛 伯敏氏(東北大学大学院 情報科学研究科 助教)
受賞対象論文「Routing or Computing? The Paradigm Shift Towards Intelligent Computer Network Packet Transmission Based on Deep Learning」

林 文晟氏(北陸先端科学技術大学院大学 情報科学系 博士後期課程在学中)
受賞対象論文「Lossy-Forward Relaying for Lossy Communications: Rate-Distortion and Outage Probability Analyses」

● 学校法人東京電機大学学術振興基金 各賞受賞者

この基金は、本学園の研究機関及び研究者等を援助するために設け、特色ある新分野を拓く学術研究及び学術研究の国際交流等を奨励し、学術の向上発展に寄与することを目的としています。(2019(令和元)年度の受賞者、所属等は受賞時)

教 育 賞 代表者：土肥 紳一 教授(システムデザイン工学部デザイン工学科)・今野 紀子 教授(システムデザイン工学部人間科学系列)
標 題：授業毎のアンケート調査結果の即時フィードバックを取り入れた教育の実践

教育奨励賞 代表者：根本 航 准教授・武政 誠 准教授・安部 智子 准教授・松永 直樹 助手(理工学部生命科学系)
標 題：キャリアプランニングを通じた自発的な学びの促進～初年次教育を通じて～

発 明 賞 【教員・嘱託部門】鈴木 剛 教授(工学部情報通信工学科)・山岸 航平(工学研究科情報通信工学専攻 修士1年)
発明の名称「群ロボットの群ロボットの集団移動制御方法」

【学生部門】陳 耀威(未来科学研究科ロボット・メカトロニクス学専攻 修士2年)
発明の名称「車輪及び車両」

論 文 賞 高野 万由子(工学研究科電気電子工学専攻修了)
論文名「Noncontact In-Bed Measurements of Physiological and Behavioral Signals Using an Integrated Fabric-Sheet Sensing Scheme」

縫村 崇行 准教授(理工学部建築・都市環境学系)
論文名「Downwasting of the debriscovered area of Lirung Glacier in Langtang Valley, Nepal Himalaya, from 1974 to 2010」

● マスコミで注目された教職員

加藤 政一	工学部 電気電子工学科教授・台風15号による千葉県の大規模停電や再生エネルギーについて、テレビ・新聞・雑誌で解説やコメント。
安田 進	名誉教授、元理工学部 建築・都市環境学系教授・台風19号による水害被害や千葉県の豪雨による土砂災害についてテレビ・新聞で解説やコメント。
山本 宏樹	理工学部 共通教育群准教授・体罰問題、不登校やいじめなどについてテレビ・ラジオ・新聞等で解説やコメント。
寿楽 浩太	工学部人間科学系列准教授・原子力に関わる問題に詳しい専門家としてテレビ・新聞で解説やコメント。

● 本学で開催された著名人の講演会 [カッコ内は開催日と主催部署等]

池上 彰氏 (フリージャーナリスト、元NHK記者)「ニュースから世界を見る」[10/26:(一社)東京電機大学校友会 創立110周年記念式典・記念講演会]

● 東京電機大学出版局の活動紹介

教科書、技術書、学術書、啓発書や文部科学省教科書など多くの出版物を刊行し、社会から高い評価を得ています。2019(令和元)年度は『はじめての振動工学』『昇降機工学』『詳解 物理学の基礎 第3版』『つなげてつくる工学入門』『たのしくできる深層学習&深層強化学習による電子工作』など21点の新刊書籍、重版56点を刊行しました。日本書籍出版協会、大学出版部協会、工学書協会、日本出版学会等に所属。



● 教育・研究の公開

教育の公開や社会貢献などを行っています。

講演会、公開講座等

「第43回ME講座」
「サイバーセキュリティシンポジウム2020 in TDU」
「第3回医療機器国際展開技術者育成講座」
「特別講演会 子どものコミュカUP術」

その他、各キャンパスで子ども、一般の方向け講座等を開催しました。

「科学・ものづくり体験教室」
「小学生ものづくり教室」

「CRCフォーラム」
「生涯学習講座『電大でマナブ』」
「工学部第二部実践知セミナー『ものづくり宿場町』」
「あだちの大学リレーイベント企画 特別講演会」

「こども大学はとやま」
「第22回オーケストラを楽しもう」
「夏休み親子でドローン体験」

● 大学発ベンチャー紹介

会社名	概要
ネプラス(株)	設 立 年 月：2000(平成12)年5月 業 務 概 要：高速高精度3次元位置測定システム等の開発、販売等 本学関係者：代表取締役：新津 靖 教授(システムデザイン工学部情報システム工学科)
日本バイオフィナリー(株)	設 立 年 月：2019(平成31)年1月 業 務 概 要：再生可能資源(バイオマス)を原料とした製品の製造技術開発、製品開発、輸出入及び国内販売 本学関係者：発起人：椎葉 究 教授(理工学部生命科学系)

(教職員が役員の企業 2019年4月現在)

●産官学連携に関する交流会

東京電機大学経営同友会

大学ならびに校友会の協力・連携の下に産学協同のネットワークとして2001(平成13)年に発足。現在の正会員数は97名です。

TDU産学交流会(埼玉鳩山キャンパス)

埼玉県内の企業と理工学部との交流会として1990(平成2)年に発足。現在の会員は27社です。

●地域連携活動に関する施設

創業支援施設「かけはし」

東京千住アネックスにて、足立区から補助を受けて、創業支援施設「かけはし」を2011(平成23)年12月から運営しています。

インキュベーションオフィス14室とシェアードオフィス12ブースがあります。

旧足立区立の中学校を利活用した事業として注目されています。

◆学生の活躍

学生の活躍・団体活動・イベントへの参加(所属等は受賞当時)

自動車部二輪車クラスチームが「Honda エコマイレージチャレンジ2019 もてぎ大会」で優勝

理工学部自動車部の3チームが、6/23ツインリンクもてぎで開催された「Honda エコマイレージチャレンジ2019 第11回もてぎ大会」に参加。同部からの参加3チームのうち市販バイクで競う二輪車クラスに出場したチームが優勝しました。

「GPS-QZSSロボットカーコンテスト2019」で優勝

11/3、東京海洋大学越中島キャンパスにて行なわれた「GPS-QZSSロボットカーコンテスト2019 ダブルパイロンREIWA」にチームTDU_Craft.Lab(情報環境学部情報環境学科4年 安部賢二さん、阿部行秀さん、鈴木翔悟さん、林 直樹さん、武藤大地さん)が参加し、優勝しました。

エネルギー研究部が「Ene-1GP MOTEGL」で入賞

エネルギー研究部が、11/23日にツインリンクもてぎで開催された「2019 Ene-1GP」に参加し、KV-BIKEチャレンジ クラスIで4位、大学高専専門学校部門で2位に入賞しました。

東京千住キャンパス自動車部が「東北660耐久レース」で優勝

東京千住キャンパス自動車部が12/1に開催された「東北660耐久レース」の学生クラスで優勝しました。

フォーミュラSAEプロジェクトが「2019 Formula SAE Australasia」に出場

埼玉鳩山キャンパスフォーミュラSAEプロジェクトが、12/5~8にかけてオーストラリアのWinton Motor Racewayで開催された「2019 Formula SAE Australasia」に出場しました。

電子機械工学系 松原さんが「全日本学生囲碁王座戦」で準優勝

理工学部電子機械工学系 松原にさんが、12/22に都内で行われた、囲碁の学生トップを決める「第18回 全日本学生囲碁王座戦」で準優勝しました。

建築学専攻の学生が団地の住戸リノベーションを企画・設計

未来科学研究科建築学専攻の学生と東京都住宅供給公社が連携し、本学学生の若者ならではの発想による企画・設計で、若年・子育て世帯のニーズに対応した魅力ある住戸のリノベーションに取り組みました。

「おたたりスマートソンプロジェクト」農業IoTで始動

情報環境学部情報環境学科の河西達彦さん、西垣一馬さんのアイデアが、長野県小谷村の地域課題をIoT技術を使って解決するプロジェクトに発展。小谷村、KCCSモバイルエンジニアリング(株)と本学による「おたたりスマートソンプロジェクト」が発足、水田の水位監視を省力化するための安価なIoTシステムを開発し、実証実験を行いました。

JAXA地球観測センターの一般公開に理工学部の2つの学生団体が出展

5/11、10/19に開催されたJAXA地球観測センター(比企郡鳩山町)一般公開に、理工学部電子計測研究室が「水ロケット打ち上げ体験」で、TDU Space Projectが「模擬惑星探査機CanSat」のデモンストレーションで出展しました。

アマチュア無線部がハムフェア2019に出展

東京千住キャンパスアマチュア無線部が8/31、9/1に開催されたアマチュア無線家の日本最大イベント「ハムフェア2019」(日本アマチュア無線連盟主催)に出展しました。

建築学専攻の学生によるデザイン提案「甲州市のまちデザインプロジェクト2019」

未来科学研究科建築学専攻の課題として山梨県甲州市のまちづくりを取り上げ、デザインを提案。7/31、甲州市役所で行われたプロジェクト発表会で、地元の方々、行政関係者へ本学学生がプレゼンテーションを実施、8/6まで模型展示が行われました。

東松山まちおこしランチバック開発プロジェクトに参加

比企地域大学等連携協議会(参加5大学)、東松山市、山崎製パン(株)が産学連携事業としてプロジェクトに取り組みました。企画商品である「栗入りコロッケ」は2019年11月~12月の2か月間、期間限定で販売されました。

理工学部の学生が「まちなかリノベーションプロジェクト」に参加

本学をはじめ5大学が参加している「まちなかリノベーションプロジェクト」で2018年度に考案したオリジナルメニュー「東松山メンチ やきとり風」のPRを学生が行い、2019年9月に同市のイベント「100円商店街」に参加しました。

埼玉鳩山キャンパス「Komorebi」、学生による企画・設計で学生食堂をリニューアル

理工学部建築・都市環境学系の2年生から大学院生共通の設計課題として、学生食堂のリニューアルを考案。43の設計案の中から建築・都市環境学系学生の設計による「Komorebi」が選ばれました。2020年3月に新しい学生食堂がお披露目されました。

「第30回IDCロボットコンテスト大学国際交流大会 in Japan」に参加

学内選考会を通過した6名が「第30回IDCロボットコンテスト大学国際交流大会 in Japan」に参加しました。(7/29~8/9)

東京電機大学後援会(在校生父母の会)

在学生の保証人の方々などを会員とする組織で、保証人の方々とは大学との意思の疎通を図る役割を担い、会員・学生のために様々な事業を展開しています。会誌「学苑」の発行のほか、各キャンパス及び全国10会場で父母懇談会を開催、「父母のための東京電機大学ガイド」の発行、メールマガジンの配信等を行っています。また、学生のクラブ、学園祭、体育祭への補助を行っています。2019(令和元)年度の父母懇談会には1,621組、2,443名(キャンパス会場1,417組2,119名、地方会場204組324名)のご父母の皆さまにご参加いただきました。

◆中学校・高等学校の取り組み

●東京電機大学中学校・高等学校の校訓



中学校の教育方針	生徒と教員の信頼関係を大切にしながら、自主性や社会性、学習への積極的な姿勢を育み、6年後の大きな飛躍へと導く。 中学1年:生活・学習両面の自主性を高める 中学2年:自立した学習法を習慣化する 中学3年:将来の目標を定めるきっかけをつかむ
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●志願者数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
中学校	988	913	960	1,198	1,147
高等学校	335	458	472	494	449
合計	1,323	1,371	1,432	1,692	1,596

●進路(高等学校 教育の取り組みの成果)

ほぼ全員が進学希望。2019年度卒業生現役進学率:84.7% 東京電機大学への2020年度入試 卒業生内部推薦:18.7%

2020年度入試 主な大学入試合格状況(現役生の延べ人数。2020年4月現在)

国公立大学	千葉2名、東京都立3名、電気通信3名、東京学芸3名、都留文科2名、公立諏訪東京理科1名、名古屋1名、和歌山1名
私立大学	早稲田1名、上智2名、東京理科14名、学習院6名、明治17名、青山学院10名、立教6名、中央14名、法政12名、武蔵2名、成蹊9名、成城2名、明治学院1名、日本22名、東洋11名、駒澤1名、専修5名、芝浦工業18名、東京都市5名、女子栄養1名、獨協1名、神田外語2名、亜細亜3名、桜美林4名、大妻女子2名、杏林10名、北里2名、工学院7名、国士館2名、駒沢女子1名、昭和2名、昭和女子1名、白百合女子1名、順天堂2名、実践女子5名、創価4名、拓殖3名、玉川3名、大東文化2名、帝京8名、東海4名、東京医療保健2名、東京家政1名、東京経済5名、東京工科大学10名、東京女子3名、東京農業9名、東京薬科2名、東邦1名、日本体育1名、日本女子1名、武蔵野13名、武蔵野美術3名、明治薬科1名、明星4名、立正2名、麻布2名、神奈川7名、東洋英和女学院1名、同志社1名、立命館1名、近畿2名、立命館アジア太平洋1名、海外2名
東京電機大学	[学内推薦 50名] (昨年度21名) システムデザイン工学部8名、未来科学部18名、工学部14名、理工学部9名、工学部第二部1名 [一般受験合格者 15名] (昨年度11名)

●中学校の受賞・成績

- 日本私立中学高等学校連合会賞
- 野球部:第71回小金井市民体育祭 野球の部 第3位
- バスケットボール部:第71回小金井市民体育祭 中学生バスケットボール大会 男子の部第3位
- 柔道部:第37回東京都中学校第7~11ブロック新人体重別柔道選手権大会 男子60kg以下級第5位
- 水泳同好会:第21回第7・8・10ブロック水泳競技会100M平泳ぎ第1位/200M平泳ぎ第1位
- バドミントン部:第109回小金井市バドミントン選手権大会 中学女子シングルス優勝 女子ダブルス第3位/第71回小金井市民体育祭バドミントン大会 中学女子シングルス第1位/東京都中体連Eブロック秋季新人大会 女子ダブルス第3位
- 第33回全国短歌フォーラム in 塩尻「学生の部」秀作賞
- 第46回東京私立中学高等学校「生徒写真・美術展」美術の部入選
- 第30回伊藤園「お〜いお茶」新俳句大賞 佳作特別賞/佳作
- 吹奏楽部第53回東京都中学校アンサンブルコンテスト 管楽7重奏銀賞

●教育目標

生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性と高い知性と強靱な体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。「豊かな心・創造力と知性・健やかな身体」をそなえた人を育てることが、本校の目標です。

高等学校の教育方針	大学入試に対応できる学力をつけるだけでなく、さまざまな職業に対する知識を深めることで生徒の希望する進路へと導く。 高校1年:現実的な視点に基づく進路選択眼を養う 高校2年:進路目標を学習意欲に結びつける 高校3年:目標達成に向けて全力で取り組む
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●進路状況

高等学校					
	本学(学部)	他大学・短大	専門学校	就職	その他
普通科(262人)	50人	160人	12人	0人	40人
中学校					
	内部進学	他校進学			
中学校(172人)	162人	10人			

●高等学校の受賞・成績

- 東京都知事賞
- 東京都私学財団賞
- 日本私立中学高等学校連合会賞
- 高校生新聞社賞
- (公益財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- 東京都高等学校文化連盟賞
- 東京都高等学校野球連盟賞
- 東京都高等学校吹奏楽連盟理事長賞
- 鉄道研究部:第11回全国高等学校鉄道模型コンテスト【中高共通】1置レイアウト部門理事長特別賞/モジュール部門 ベストライター賞・努力賞
- 柔道部: 第4支部新人柔道大会 男子個人無段の部66kg以下級第2位 第3位 第5位 男子団体系体重順の部第2位
- 第46回東京私立中学高等学校「生徒写真・美術展」美術の部 入選
- 吹奏楽部:第59回東京都高等学校吹奏楽コンクール C組金賞
- 放送部:第66回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会 テレビドキュメント部門 第4位
- 男子バレーボール部:第27回関東私立高等学校男女バレーボール選手権大会出場
- 日本生徒会大賞2019 特別賞 H30年度 前期生徒会役員
- 第30回伊藤園「お〜いお茶」新俳句大賞 佳作特別賞/佳作
- 課題解決プロジェクト Season2 学生×DHC第3位
- 第3回パワーオブイノベーション2019 企業賞
- 第5回学生団体総選挙 総合グランプリ
- 税の作文 入選

◆ データ集

● 資産

キャンパス総面積	698,665.41㎡
東京千住キャンパス	26,221.39㎡
埼玉鳩山キャンパス	348,469.68㎡
千葉ニュータウンキャンパス	205,058.00㎡
東京小金井キャンパス	22,023.48㎡
東京千住キャンパス千住東グラウンド	7,918.86㎡
平岡総合グラウンド	88,974.00㎡

図書蔵書数	218,814冊
学生用図書	203,101冊
研究用図書	15,713冊
雑誌	2,080タイトル
電子ジャーナル	約7,470タイトル
電子ブック	約57,322タイトル

コンピュータ台数	
ネットワーク接続	約8,700台

● 学生数(人)

大学	9,866 (1,267)	() 内は女性数で内数
大学院		
先端科学技術研究科	博士: 47 (5)	
工学研究科	修士: 316 (19)	
理工学研究科	修士: 230 (40)	
情報環境学研究科	修士: 56 (6)	
未来科学研究科	修士: 275 (46)	
工学部	2,729 (220)	
工学部第二部	782 (55)	
理工学部	2,752 (367)	
情報環境学部	30 (1)	
未来科学部	1,603 (331)	
システムデザイン工学部	1,046 (177)	
高等学校	804 (213)	
中学校	450 (130)	

● 定員(人)

大学院	入学定員	収容定員
先端科学技術研究科(博士)	32	96
工学研究科(修士)	170	340
理工学研究科(修士)	122	244
情報環境学研究科(修士)	40	80
未来科学研究科(修士)	145	290
学部		
工学部		
電気電子工学科	120	480
電子システム工学科	90	360
応用化学科	80	320
機械工学科	110	440
先端機械工学科	100	400
情報通信工学科	110	440
工学部第二部		
電気電子工学科	60	240
機械工学科	60	240
情報通信工学科	60	240
理工学部		
理工学科	600	2,400
未来科学部		
建築学科	130	520
情報メディア学科	110	440
ロボット・メカトロニクス学科	110	440
システムデザイン工学部		
情報システム工学科	130	520
デザイン工学科	110	440
高等学校	250	750
中学校	150	450

● 卒業生数

225,226人

● 関連機関

一般社団法人東京電機大学校友会 東京電機大学後援会

(2020年5月1日現在)

● 修了者・卒業生数 (2019年度)

			昼	夜	合計	
大学	大学院	先端科学技術研究科	博士課程(後期)	4 ※(1)	—	4
		工学研究科	修士課程	154	—	154
	学部	理工学研究科	修士課程	96	—	96
		情報環境学研究科	修士課程	31 ※(2)	—	31
		未来科学研究科	修士課程	119 ※(3)	—	119
高等学校	工学部		648 ※(4)	—	648	
	工学部第二部		—	109 ※(5)	109	
	理工学部		598 ※(6)	—	598	
	情報環境学部		269 ※(7)	—	269	
	未来科学部		346 ※(8)	—	346	
高等学校		262	—	262		
中学校		172	—	172		
合計		2,699	109	2,808		

※(1)2019年9月修了者1名含む。
 ※(2)2019年8月修了者1名含む。
 ※(3)2019年9月修了者1名含む。
 ※(4)2019年9月卒業生5名を含む(3年の修学による早期卒業生は対象者なし)。
 ※(5)2019年9月卒業生10名を含む。
 ※(6)2019年9月卒業生8名、3年の修学による早期卒業生3名、3.5年の修学による早期卒業生1名を含む。
 ※(7)2019年8月卒業生8名を含む。
 ※(8)2019年9月卒業生2名含む(3年の修学による早期卒業生は対象者なし)。

● 役員・従業員数 (2020年5月1日現在)

役員等	理事	監事	評議員	顧問	学資	参与
	13	2	48	3	19	38

専従者	教員職員	教育嘱託	任期付教員	特別専任教授	事務職員	事務嘱託	技術職員	技術嘱託	計
法人	0	0	0	0	35	0	1	1	37
大学	231	37	66	9	113	12	7	2	477
高等学校	39	2	0	0	5	0	0	0	46
中学校	21	2	0	0	1	2	0	0	26
小計	291	41	66	9	154	14	8	3	586

事業本部	0	0	0	0	4	0	0	0	4
校友会	0	0	0	0	2	1	0	0	3

合計	291	41	66	9	160	15	8	3	593
----	-----	----	----	---	-----	----	---	---	-----

学生職員・補助職員	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
学生職員	0	44	0	0	0	44
補助職員	1	39	7	3	2	52
合計	1	83	7	3	2	96

外来教員	大学	高校	中学	計
非常勤教員	516	35	21	572

業務委託・人材派遣	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
業務委託・人材派遣	16	95	2	7	2	122

入試コーディネーター等労働契約者	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
週5日以上勤務者	0	9	1	6	0	16

◆ データ集

● 学生募集状況

学部志願者数 (一般・センター入試)	(人)		
学部	2018年度	2019年度	2020年度
工学部	8,274	9,977	10,953
工学部第二部	690	1,120	935
理工学部	5,863	6,565	6,522
情報環境学部			
未来科学部	4,698	6,131	6,428
システムデザイン工学部	3,631	4,428	4,475
合計	23,156	28,221	29,313

● 進路状況 (2019年度修了者・卒業生)

大学	(人)				
(1) 求人申込企業数	15,208社				
(2) 求人数	214,173人				
(3) 就職希望登録者及び決定者数					
	内訳	登録者数	決定者数	内定率	
大学院	工学研究科	修士課程	147人	147人	100.0%
	理工学研究科	修士課程	87人	87人	100.0%
	情報環境学研究科	修士課程	28人	28人	100.0%
	未来科学研究科	修士課程	108人	104人	96.3%
	工学部		449人	440人	98.0%
学部	工学部第二部		69人	66人	95.7%
	理工学部		409人	400人	97.8%
	情報環境学部		222人	218人	98.2%
	未来科学部		204人	203人	99.5%
合計		1,723人	1,693人	98.3%	

大学院志願者数	(人)		
研究科	2018年度	2019年度	2020年度
先端科学技術研究科	12	10	14
未来科学研究科	128	163	144
工学研究科	175	175	178
理工学研究科	118	150	112
情報環境学研究科	32	24	38
合計	465	522	486

※大学院志願者数には、9月入学者を含む。

(4) 規模別就職者数
 大企業(資本金10億円以上)870人
 中企業(資本金1億円~10億円未満)419人
 小企業(資本金1億円未満)404人
 その他(公務員、教員等) 31人

大学院進学状況		
本学大学院進学者	工学部	156人
	工学部第二部	6人
	理工学部	94人
	情報環境学部	27人
	未来科学部	119人
他大学院進学者	工学部	9人
	工学部第二部	2人
	理工学部	18人
	情報環境学部	1人
未来科学部	5人	

※上記には、早期卒業による本学大学院進学者、理工学部4名を含む。

● 寄付状況 (2019年度学校法人東京電機大学サポート募金) [期間 2019年4月1日~2020年3月31日]

学校法人東京電機大学サポート募金	使途指定	在校生ご父母	卒業生(関係団体含む)	役員・教職員(元教職員含む)	法人	一般賛同者	合計
奨学金		39件	89件	31件	6件	1件	166件
		313,000円	1,258,500円	1,400,000円	370,000円	30,000円	3,371,500円
施設・設備		254件	42件	30件	19件	4件	349件
		4,568,578円	1,619,122円	2,100,000円	13,570,000円	710,000円	22,567,700円
課外活動		144件	30件	24件	3件	4件	205件
		1,388,500円	2,747,000円	1,102,000円	620,000円	120,000円	5,977,500円
その他・指定なし		97件	166件	18件	21件	8件	310件
		2,771,000円	8,017,605円	7,790,000円	13,690,000円	667,351円	32,935,956円
合計		534件	327件	103件	49件	17件	1,030件
		9,041,078円	13,642,227円	12,392,000円	28,250,000円	1,527,351円	64,852,656円

◆ データ集

● 1年次学費一覧

2020年度

(単位:円)

科目/研究科		先端科学技術研究科	未来科学研究科 (建築学専攻)	未来科学研究科 (建築学専攻以外)/ 工学研究科	理工学研究科/ 情報環境学研究科	工学研究科 (社会人コース)
学 費	入学金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
	授業料	505,000	610,000	505,000	505,000	336,650
	教育充実費	—	5,000	5,000	—	3,350
受託諸会費 (前期のみ)	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	学研災	2,600	1,750	1,750	1,750	2,600
	学研賠	1,020	680	680	680	1,020
入 学 期 (入学諸費用)		764,620	873,430	768,430	763,430	599,620
後 期		505,000	615,000	510,000	505,000	340,000
合 計 (年 額)		1,269,620	1,488,430	1,278,430	1,268,430	939,620

(単位:円)

科目/学部		未来科学部(建築学科)	システムデザイン工学部/ 未来科学部(建築学科以外)/ 工学部	理工学部	工学部第二部 ※学費単位従量制
学 費	入学金	250,000	250,000	250,000	130,000
	授業料	453,500	453,500	453,500	60,800
	履修単位従量額	—	—	—	(@13,400×履修単位数)
	実験実習料	95,500	75,000	75,000	—
	教育充実費	172,000	172,000	152,000	87,250
受託諸会費 (前期のみ)	後援会費	5,000	5,000	5,000	4,000
	自治会費	5,500	5,500	5,500	5,000
	自治会入会金	1,000	1,000	1,000	1,000
	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000	6,000
	学研災	3,300	3,300	3,300	1,400
	学研賠	1,360	1,360	1,360	1,360
入 学 期 (入学諸費用)		993,160	972,660	952,660	296,810+ (@13,400×履修単位数)
後 期		721,000	700,500	680,500	148,050+ (@13,400×履修単位数)
合 計 (年 額)		1,714,160	1,673,160	1,633,160	444,860+ (@13,400×履修単位数)

その他インフォメーション

学術資料

● クラーク文庫：エジソンの共同研究者の特別集書

アメリカの電気工学者、チャールズ・クラークが所蔵していた資料です。クラークはエジソンの共同研究者で、電気技術の発展に大いに貢献しました。19～20世紀の電気学、物理学、工学など科学技術に関する約500点で構成され、古典とされるアンペール、ファラデー、ヘルツ、オーム等の初版本も含まれています。

● 科学技術と本文庫

江戸から明治時代前半の科学・技術の文献約200点を収集したもので、わが国でも数少ない和本文庫です。大半は木版印刷による和綴書ですが、毛筆書きの写本や書簡も含まれます。鎖国体制下に始まる蘭学の時代から明治の文明開化に至るまでの、日本の科学・技術の流れをたどることができる貴重な資料です。



● 山岡文庫

山岡望(1892(明治25)～1978(昭和53)年)は、わが国の化学教育と化学史研究の草分け的存在です。山岡文庫は、氏が生前に収集した文庫類約280点を集めたもので、洋書や雑誌類も数多く含まれています。単に図書としてではなく、歴史に残る化学教育者・化学史家が使用した文献という意味でも、貴重な歴史資産です。

貴重資料

● エジソン蓄音機

音を出し入れできる器械の出現の夢を、1877(明治10)年に遂にエジソンが達成。日本には2年後の1879(明治12)年に紹介されました。(本学展示は、「トライアンプ Model Cand D 形式」の蓄音機)



● エジソンダイナモ

エジソン形直流発電機は、エジソンが1879(明治12)年に発明し、自らエジソン社を創立、この機械を製造しました。現存しているのは本学のほか、東京大学、東京国立博物館、東京理科大学の3台だけで、しかも発電可能なものは本学の1台のみで、歴史的にも貴重なものです。



● その他

他に本学創立期の実演教育に活用された、直流電位差計、P.O.箱(Post-Office-Box)、昭和初期の五球再生式ラジオ、昭和30年代の電動式モノロー計算機、日本初の「日本語ワードプロセッサ」も理工学部にて展示しています。

学校法人東京電機大学サポート募金

「学校法人東京電機大学サポート募金」は、各キャンパスでの事業や学生・生徒活動などのさらなる推進をご支援いただくことを目的に、寄付の用途を指定いただける募金として2013(平成25)年にスタートしました。また、寄付方法の利便性と多様化を図るため、2016(平成28)年10月からインターネットを利用した募金方法、2019(令和元)年10月からは不用となった本やCDなどを本学園が契約する会社に送付し、サポート募金として受け入れる募金「TDU本deサポート募金」を導入しました。皆様方のご支援・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。※研究に関しては研究活動奨励寄付金としてお受けいたしております

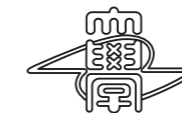


高額寄付(1,000万円以上)の受入状況 企業 足立成和信用金庫様 10,000,000円

- ネーミングライツご紹介: 寄付者の名前を冠した施設 カシオホール、神山記念ラウンジ、井上記念学生ラウンジ、松本記念学習ホール、福田記念セミナー室
- 座席にお名前を顕彰: 学園のメインホール東京千住キャンパス1号館2階丹羽羽の座席に累計100万円以上の募金を頂いた方のお名前を顕彰いたしております。

大学校章

1939(昭和14)年3月の高等工業学校設置時に、「近代文明の根幹をなす電機工業の源泉たる電気現象を表現するとともに、さらにこれを通じて生々無息なる宇宙造化を意味するものなり」として、稲妻をモチーフにした図案が制定されました。その後、1949(昭和24)年の大学開設に際して、その図案と文字を組み合わせ、東京電機大学の校章として制定されました。



ロゴ・マーク

大学開設以来の工学部に加え、1977(昭和52)年には理工学部を設置し、東京電機大学は単科大学から理工系総合大学になりました。英文名称もそれまでの Tokyo Electrical Engineering College (TEEC) から、Tokyo Denki University (TDU) に変更しました。1984(昭和59)年、創立75周年記念事業として、神田のキャンパスに17階建ての11号館を建設する際、外壁に大学名と「TDU」を表示することになり、この3文字がデザインされました。「TDU」は校舎や各種広報物などに使用されています。



学園公認徽章

スクールカラーの紺青をベースとし大学校章の通称稲妻マークを中央、TDUを上部、校名を下部に配置。教職員、在校生、卒業生等が着用しています。(2009年7月制定)



大学エンブレム

学園公認徽章を踏まえ、愛校心涵養や国際交流など格式を重んじる場面等で活用されるエンブレムをデザインし制定しました。(2011年5月制定)

